

**鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化に向けた検討  
答申案**

**鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会**

**令和2年●月**



# 目 次

|                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| <b>1. 深沢地区まちづくりの実現化に向けて</b> | <b>1</b>  |
| 1) 検討の背景                    | 1         |
| 2) 委員会設置の背景                 | 1         |
| 3) 委員会の位置付け                 | 3         |
| 4) 答申の位置づけ                  | 4         |
| <b>2. 深沢地域整備事業の経緯と課題</b>    | <b>5</b>  |
| 1) まちづくりの経緯                 | 5         |
| 2) 深沢地区の現況と課題               | 7         |
| <b>3. まちづくりのコンセプトの具体化</b>   | <b>37</b> |
| 1) 歴史的背景と「鎌倉らしさ」、「深沢らしさ」    | 37        |
| 2) 新たな潮流                    | 38        |
| 3) まちの将来像3つの視点              | 39        |
| <b>4. 修正土地利用計画案の再点検</b>     | <b>41</b> |
| 1) 基本的な考え方                  | 41        |
| 2) 修正土地利用計画（案）の課題           | 42        |
| 3) 再点検の内容                   | 43        |
| <b>5. 実現化施策</b>             | <b>59</b> |
| 1) 取り組みの方向性                 | 59        |
| 2) 実現化メニュー                  | 64        |
| <b>6. まちづくり推進体制及び実現手法</b>   | <b>81</b> |
| 1) 基本的な考え方                  | 81        |
| 2) 公民連携による実現、各主体の役割分担       | 82        |
| 3) 推進体制および実現手法の枠組み(案)       | 83        |
| 4) まちづくり推進体制（案）             | 85        |
| 5) 事業手法                     | 93        |

|                                             |            |
|---------------------------------------------|------------|
| 6) 民間活力の導入、民間開発の誘導方策                        | 100        |
| <b>7. 防災の拠点を支えるためのまちづくりの考え方や備えるべきまちの機能等</b> | <b>102</b> |
| 1) 深沢地域整備事業区域の災害想定                          | 102        |
| 2) 災害想定の方え方とその対応                            | 123        |
| 3) 災害発生時及び被災後の対応について                        | 125        |
| 4) 防災拠点としての機能強化について                         | 126        |
| 5) まちの魅力を高める防災面での工夫について                     | 128        |
| <b>8. 今後の展開と取り組むべきこと</b>                    | <b>130</b> |
| 1) 今後の展開                                    | 130        |
| 2) 取り組むべきこと                                 | 130        |
| 3) 今後留意すべきこと                                | 131        |
| <b>用語集</b>                                  | <b>133</b> |

# 1. 深沢地区まちづくりの実現化に向けて

## 1) 検討の背景

鎌倉市は、観光都市としての特性から、昼間に一定の人口がある一方で、市内在住者は市外への通勤が多く、都心のベッドタウンとしての位置づけでしたが、平成 29 年に施行された働き方改革に伴い、職住近接が改めて見直されてきている中、多くの歴史的遺産や、海・山に囲まれた豊かな自然環境に恵まれたまちで働き、暮らすという新たなライフスタイルを定着させる「働くまち鎌倉」、「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の実現が急務となりました。

これまでの鎌倉の都市構造は、歴史的遺産、観光、文化等の中心地であり、「旧鎌倉地域」と呼ばれる鎌倉駅周辺拠点と、鎌倉の北の玄関口として、商業・経済をけん引する交通結節点としての大船駅周辺拠点によって支えられてきました。

東海道本線の大船・藤沢駅間東海道線新駅設置が現実味を帯びる中、鎌倉の産業の集積地である深沢地域を、第 3 の新たな都市拠点として鎌倉の都市構造に位置付け、3 つの拠点が連携することにより、持続可能な都市の発展を目指そうとしています。深沢地区においては、新たな時代の潮流ともなりつつある AI や IoT などの最先端テクノロジーを駆使した未来志向のまちづくりに挑み、鎌倉が抱える「人口減少と少子・高齢社会」、「防災・減災、安全・安心のまちづくり」など様々な課題への対応を図っていきたいと考えています。

## 2) 委員会設置の背景

深沢地区のまちづくりは、鎌倉、大船とともに 3 つの拠点を形成し、この 3 つの拠点が地域特性を生かしながら、都市機能の集積と市民生活の向上を図る拠点として充実・発展し、相互に作用し、地域に新たな価値を創造することで、鎌倉市全体の活力や魅力を向上させることを目指し進めています。現在、平成 28 年 10 月に策定した「深沢地域整備事業の修正土地利用計画（案）」

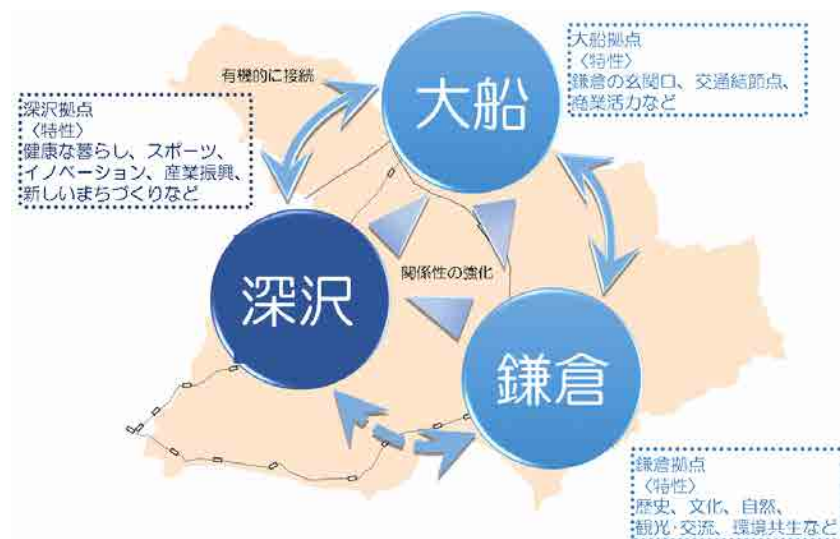
（以下「修正土地利用計画（案）」という。）を基に、令和 3 年度の土地区画整理事業の都市計画決定を目標に事業の実現に取り組んでいるところですが、魅力あるまちづくりの実現性を高めていくためには、まちのコンセプトの具体化やまちづくりの推進体制の検討などを進めていく必要があります。

鎌倉市は平成 30 年 6 月に、国から SDG s 未来都市に選定されました。昨今の技術革新等により、社会環境や人々のライフスタイルが急速に変化している中で、深沢地区においても SDG s の理念に基づき持続可能なまちづくりを行い、社会課題の解決を積極的に進めていく必要があります。人生 100 年時代における新たなライフスタイルを提案できるまちとしていくことが求められています。

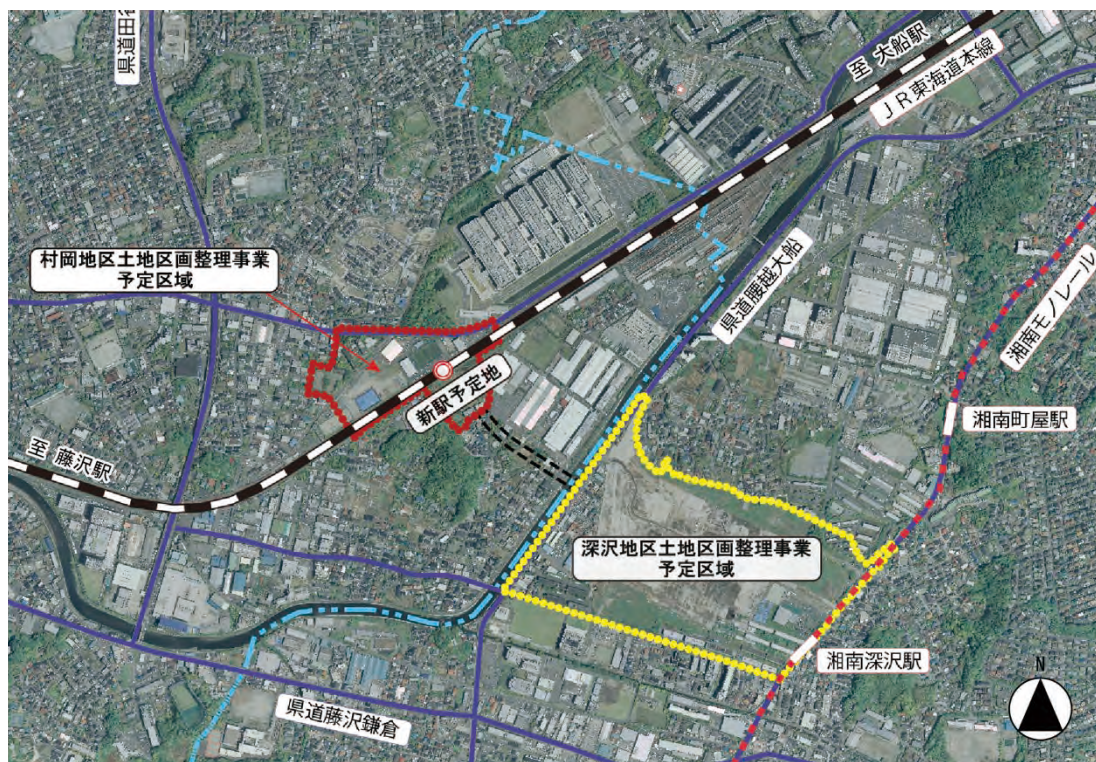
さらに、諸外国では AI 及びビックデータ等最先端 ICT 技術を活用することで社会のあり方を根本から変えることを目指したスマートシティづくりの動きが加速しています。この流れの中で、内閣府が「スーパーシティ構想」を打ち上げる等、日本でも ICT 技術等にデータ活用基盤をベースとした都市設計への取組が始まっています。鎌倉市においても、こうした流れをうまく活用して市民生活をより豊かにするためのデータ基盤並びにステークホルダーの集まるプラットフォームづくりが必要とされています。

このような背景のもと、修正土地利用計画（案）を基に深沢地区のコンセプトを実現するために、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会（以下「委員会」という。）において、鎌倉市長から諮問された事項について必要な事項を調査及び検討することになりました。

## 【鎌倉市の3つの拠点と特性】



## 【対象区域】



## 【諮問の内容】

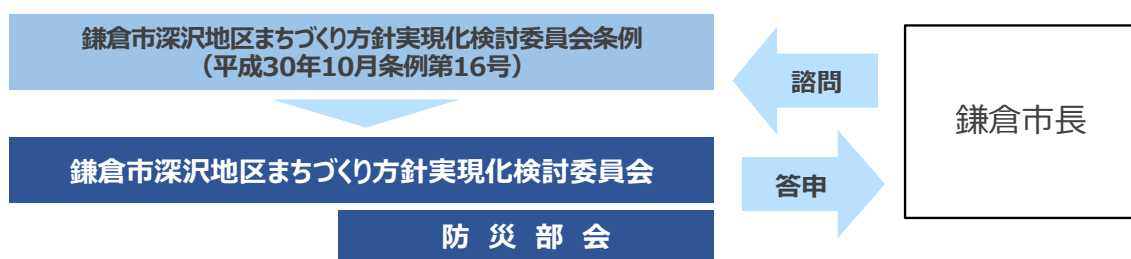
- 将来の社会環境の変化等にも対応できる実現性の高いまちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討
  - まちづくりのコンセプト及び実現化施策を踏まえた修正土地利用計画（案）の再点検
  - まちづくりのコンセプト、実現化施策及び土地利用計画を実現していくためのまちづくりの推進体制
- さらに、本庁舎等の移転に伴い、深沢地区は防災の拠点として機能する必要があることから、
- 防災の拠点を支えるためのまちづくりの考え方や備えるべきまちの機能等

### 3) 委員会の位置付け

鎌倉市長から諮問された事項について必要な事項を調査及び検討する組織として、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会条例に基づき、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会が設置されました。

また、深沢地域整備事業区域の行政施設用地に本庁舎が移転することに伴い、深沢地区が防災拠点として機能する必要があることから、委員会での防災面の検討をより専門的な見地から行うために防災部会が設置しました。

#### 【委員会の位置付け】



#### 【委員会名簿（50 音順）】

| 氏名                  | 所属                         |
|---------------------|----------------------------|
| 入江 貴裕氏 【知識経験者】      | 株式会社日本政策投資銀行 地域企画部次長       |
| 大木 聖子氏 【学識経験者】      | 慶應義塾大学 環境情報学部 准教授          |
| 佐久間 信哉氏 【学識経験者】 委員長 | 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授  |
| 関根 正人氏 【学識経験者】      | 早稲田大学 理工学術院 教授             |
| 辻 秀一氏 【知識経験者】       | 株式会社エミネクロス 代表取締役（スポーツドクター） |
| 中村 英夫氏 【学識経験者】      | 日本大学 理工学部土木工学科 教授          |
| 日高 仁氏 【学識経験者】 副委員長  | 関東学院大学 人間共生学部共生デザイン学科 准教授  |
| 福岡 孝則氏 【学識経験者】      | 東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 准教授    |
| 増井 玲子氏 【学識経験者】      | 東洋大学 P P P 研究センターリサーチパートナー |

#### 【防災部会名簿（50 音順）】

##### （部会委員）

| 氏名                 | 所属                |
|--------------------|-------------------|
| 大木 聖子氏 【学識経験者】     | 慶應義塾大学 環境情報学部 准教授 |
| 関根 正人氏 【学識経験者】 部会長 | 早稲田大学 理工学術院 教授    |

##### （関係者）

| 氏名             | 所属                                 |
|----------------|------------------------------------|
| 規矩 大義氏 【学識経験者】 | 関東学院大学 学長、理工学部 教授                  |
| 目黒 公郎氏 【学識経験者】 | 東京大学 生産技術研究所 教授、都市基盤安全工学 国際研究センター長 |

## 4) 答申の位置付け

本答申は、第1回から第6回までの本委員会における議論を基に、まちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討、修正土地利用計画（案）の再点検、まちづくりの推進体制、防災の拠点を支えるためのまちづくりの考え方や備えるべきまちの機能等の内容を取りまとめたものです。

コンセプトについては、平成28年に策定した修正土地利用計画（案）を基に、まちづくりのテーマである「ウェルネス」は、健康を維持・発展させることのみにとどまらず、人々のクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を向上させる概念であるとの議論のもと、健康づくりやスポーツなどウェルネスを具現化する第1歩として「歩く」ことに着目しました。歩くことはからだの健康だけでなく、脳の活性化やこころの健康にもつながります。また、賑わいの創出や人々の交流を促し、人々の「知」の交流がひいてはイノベーションを生み出すことにもつながるものとして、ウォーカブルなまちを目指す考え方を中心に据え、鎌倉らしさ、深沢らしさを取り入れながら、平成28年度以降の、鎌倉市や神奈川県、さらには国レベルなどにおける新たな潮流を加味し、「ウェルネス」を実現するための「まちの将来像3つの視点」を示しました。

実現化施策については、「まちの将来像3つの視点」に基づく「取り組みの方向性」を整理するとともに、さらにそれに基づく実現化メニュー及びその具体的内容を示しました。

修正土地利用計画（案）の再点検では、まちづくりのコンセプトを実現するための、「まちの将来像3つの視点」や、将来の社会環境の変化にも柔軟に対応できる視点などを加え、土地利用や地区内道路のあり方について、再点検を行いました。

まちづくりの推進体制については、各事業の進捗段階において、必要な推進体制を示しました。また、合わせて事業手法についても整理しました。

また、防災部会において、事業区域が鎌倉市の防災拠点として必要な機能を発揮するための考え方や対応方策について検討を行い、事業区域において想定される災害に対する評価やまちづくりにおける防災対策等についてまとめ、これらの考えも取り入れ、答申としてまとめています。

### 【答申の主な内容】

まちづくりのコンセプト及び  
実現化施策の検討

修正土地利用計画（案）の再点検

まちづくりの推進体制

防災の拠点を支えるための  
まちづくりの考え方や  
備えるべきまちの機能等

## 2. 深沢地区整備事業の経緯と課題

### 1) まちづくりの経緯

深沢地域整備事業用地は、太平洋戦争が始まる前は田畑でしたが、ＪＲの大船工場三十年史によると、戦争が始まると海軍が土地を接収して、横須賀海軍工廠の分工場を建設し、魚雷等の兵器製造を開始しました。太平洋戦争が終了すると、海軍が所有していた土地を国鉄が譲り受け、車両工場と車両基地を建設し、横須賀線の運行を支える重要な施設となりました。

その後、昭和 62 年（1987 年）4 月の国鉄改革に伴い、ＪＲ東日本鎌倉総合車両センター周辺に約 8.1ha、湘南貨物駅跡地に約 3.6ha の国鉄清算事業団用地が誕生しました。

鎌倉市は、国鉄清算事業団から約 8.1ha の土地の取得（平成 20 年 3 月取得完了）に着手するとともに、平成 16 年には、「ウェルネス」をテーマとする深沢地域の新しいまちづくり基本計画を行政計画としました。そして、平成 18 年に、東日本旅客鉄道株式会社が隣接する鎌倉総合車両センターの廃止を決めたことなどを受け、当該センター跡地約 17.0ha（社宅跡地を含む）や西側地区を含めたまちづくり構想の検討を始めました。

平成 20 年 3 月には、神奈川県、藤沢市、鎌倉市の 3 者で、検討体制を強化し、「村岡・深沢地区全体整備構想（案）」を策定し、大船・藤沢駅間東海道線新駅設置を前提とした両市一体のまちづくりの実現への取組みが進むこととなり、その後、平成 27 年には、鎌倉市においてまちづくり意見交換会を開催し、市民意見を聴取し、その意見を反映するとともに、まちづくりのテーマである「ウェルネス」を具体化するため、修正土地利用計画（案）を策定しました。ここでは「ウェルネス」の概念を「健康な心身を維持・発展させる生活行動」と定義づけ、人とまちがこの概念を共有することにより、地域で愛され続けるまちの実現を目指すこととしました。また、「ウェルネス」の概念を具体的に示すため、「ヘルシー（健康維持・増進）」、「ナチュラル（自然・歴史）」、「メッセージ（魅力発信）」、「セーフ（安全・安心）」、「ユニバーサルデザイン（誰にでも快適なデザイン）」、「コミュニティ（交流・出会いの場）」、「アクティブ（暮らし方・働き方・楽しみ方）」という 7 つのキーワードを併せて定め、深沢地区において目指すべきまちの姿を描きました（この後、令和元年に実施したコンセプトの具体化作業の一環として、「メッセージ」を「クリエイティブ」に、「セーフ」を「セーフティ」にそれぞれ見直しています）。

平成 30 年 3 月には、鎌倉市公的不動産利活用推進方針を策定し、市役所本庁舎の移転先を深沢地域整備事業用地に決めました。また、平成 30 年 12 月には、神奈川県、藤沢市、鎌倉市が深沢・村岡両地区一体のまちづくりと新駅の実現に向けた合意をするとともに、平成 31 年 1 月には、村岡新駅（仮称）設置協議会からＪＲ東日本に対し、東海道本線への新駅設置及び整備費用の一部負担、新駅の概略設計の実施を要望しました。

一方で、同年（令和元年）5 月には、神奈川県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品工業株式会社、湘南鎌倉総合病院の 5 者でヘルスイノベーション最先端拠点形成にかかる連携・協力に関する覚書を締結するなど、官民あげてまちづくりの機運が高まりつつあります。

## 【鎌倉市深沢地域整備事業の経緯】

|         |      |                                                                                                             |
|---------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和 62 年 | 4 月  | 国鉄改革に伴い、JR 東日本鎌倉総合車両センター周辺に約 8.1ha の国鉄清算事業団用地が誕生                                                            |
| 平成 6 年  | 11 月 | 「新しいまちづくりの基本的方向」の提言（鎌倉市深沢地域まちづくり市民懇話会）                                                                      |
| 平成 8 年  | 1 月  | 「深沢地域の新しいまちづくりの基本計画（素案）」の提言（深沢まちづくり会議）                                                                      |
|         | 3 月  | 旧国鉄清算事業団用地の取得を開始（当該年度は土地開発公社にて取得）                                                                           |
|         | 12 月 | 市が「基本計画（案）」をまとめる                                                                                            |
| 平成 15 年 | 9 月  | 「深沢まちづくり協議会」を設置し、「基本計画（案）」の見直しを開始する（大船・藤沢駅間東海道線新駅は一旦脇に置いて検討）                                                |
| 平成 16 年 | 5 月  | 「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」の提言（深沢まちづくり協議会）                                                                          |
|         | 9 月  | 「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」を行政計画に位置付ける。「ウェルネス」がまちづくりのテーマとなる。                                                        |
| 平成 18 年 | 3 月  | JR 鎌倉総合車両センターが廃止となる<br>武田薬品工業（株）湘南工場（藤沢市）が山口県光市へ移転<br>武田薬品が湘南工場跡地に新創薬研究所を建設することを発表                          |
| 平成 19 年 | 6 月  | 西側権利者に対し土地区画整理事業実施の意向を確認し、66 名（85.7%）から理解を得る                                                                |
|         | 8 月  | 村岡・深沢地区全体整備構想検討委員会設置（広域のまちづくり検討）<br>深沢地区事業推進専門委員会設置（専門家組織）                                                  |
|         | 10 月 | 深沢地区事業推進協議会設置（市民、権利者、公的団体、学識経験者組織）                                                                          |
|         | 11 月 | 深沢地区まちづくり検討部会全体会設置（権利者組織）                                                                                   |
| 平成 20 年 | 3 月  | 『村岡・深沢地区全体整備構想（案）』がまとめられる（村岡・深沢地区全体整備構想検討委員会：国交省、県、藤沢市、鎌倉市、都市再生機構組織）                                        |
| 平成 21 年 | 6 月  | 「深沢地域の新しいまちづくりビジョン」が提言（深沢地区事業推進協議会）                                                                         |
| 平成 22 年 | 9 月  | 土地利用計画（案）策定（深沢地区事業推進専門委員会）                                                                                  |
| 平成 23 年 | 1 月  | 市民を対象とした土地利用計画（案）の説明会の開催                                                                                    |
| 平成 24 年 | 7 月  | 都市計画決定に向け土地利用計画（案）等についてパブリックコメントを実施                                                                         |
|         | 9 月  | 「深沢地域国鉄跡地周辺総合整備事業と都市計画の案の説明会」を実施                                                                            |
| 平成 25 年 | 5 月  | 「鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン（案）」が提言される（鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会：市民、権利者、学識経験者等組織）                                      |
|         | 11 月 | 都市計画決定手続きの開始<br>まちづくり条例に基づく縦覧を実施                                                                            |
| 平成 26 年 | 1 月  | 都市計画公聴会の開催                                                                                                  |
|         | 6 月  | 都市計画決定手続きの見合わせ                                                                                              |
|         | 12 月 | 市議会において、「鎌倉都市計画深沢地区土地区画整理事業および地区計画の見直しについて」の陳情（採択）                                                          |
| 平成 27 年 | 3 月  | 鎌倉市公共施設再編計画の策定（総合体育館・消防本部整備の位置づけ）                                                                           |
|         | 4 月  | 新ごみ焼却施設建設候補地から、本事業の市有地が外れる                                                                                  |
|         | 7 月  | 「村岡・深沢地区総合交通戦略策定協議会」を設置し策定に向けて協議開始（湘南地区整備連絡協議会）（国交省、県、藤沢市、鎌倉市、交通管理者、交通事業者、学識経験者組織）                          |
|         | 8 月  | 市民の意見や要望を聞くため「深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会」を開催（全 4 回開催）                                                              |
| 平成 28 年 | 3 月  | 『村岡・深沢地区総合交通戦略』を策定（湘南地区整備連絡協議会）<br>『東海道本線大船駅・藤沢駅間の新駅設置実現化検討調査』結果の報告により大船・藤沢駅間東海道線新駅概算事業費の増額を確認（湘南地区整備連絡協議会） |
|         | 6 月  | 深沢地域整備事業の修正土地利用計画（素案）の確定、パブリックコメント実施                                                                        |
|         | 10 月 | 「深沢地域整備事業の修正土地利用計画（案）」の策定                                                                                   |
| 平成 30 年 | 3 月  | 鎌倉市公的不動産利活用推進方針の策定、市役所本庁舎の移転先を深沢地域整備事業用地に決定                                                                 |
|         | 10 月 | 鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会設置。                                                                                   |
|         | 12 月 | 神奈川県・藤沢市・鎌倉市の 3 県市で両地区一体のまちづくりと新駅の実現に向け合意し、「村岡新駅（仮称）設置協議会」を設立                                               |
| 平成 31 年 | 1 月  | 「村岡新駅（仮称）設置協議会」から JR 東日本に対し、東海道本線への新駅設置及び整備費用の一部負担、新駅の概略設計の実施を要望                                            |
| 令和元年    | 5 月  | 神奈川県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品工業㈱、湘南鎌倉総合病院の 5 者でヘルスイノベーション最先端拠点形成にかかる連携・協力に関する覚書を締結                                      |
|         | 7 月  | 鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会中間答申                                                                                  |

## 2) 深沢地区の現況と課題

まちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討や修正土地利用計画（案）の再点検の前提となる事項として、鎌倉市・深沢地区の現況・課題を整理しました。

### 【整理項目】

| 項目      | 内容                                                                          | 備考             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 交通      | ・自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の現況・課題（深沢地区内、深沢地区周辺、深沢地区を含めた広域）<br>・公共交通の現況・課題（鉄道、バス交通） |                |
| 防災      | ・津波<br>・洪水・浸水<br>・液状化<br>・土砂災害                                              | ・防災部会報告書を踏まえ整理 |
| 環境      | ・自然環境（緑、水）<br>・歴史資源                                                         |                |
| 社会（人口）  | ・鎌倉市の人口等の状況<br>・藤沢市の人口等の状況                                                  |                |
| 産業      | ・鎌倉市の産業について<br>・深沢地区周辺の主な企業分布について<br>・鎌倉駅周辺への IT 関連企業の集積<br>・神奈川県における特区の状況  |                |
| 健康・スポーツ | ・鎌倉市の健康<br>・スポーツ                                                            |                |

### (1) 交通

#### ①自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の現況・課題

##### ア. 深沢地区内

現在計画中の道路計画における交通上の課題は、①シンボル道路をはじめとした各種道路における歩行者と自動車の輻輳（ふくそう）をできる限りの排除、②街区間の歩行者動線の確保、交通広場機能の明確化とそれを踏まえた配置、③県道や市道からの自動車の引き込み、④村岡地区とつながり、となっています。

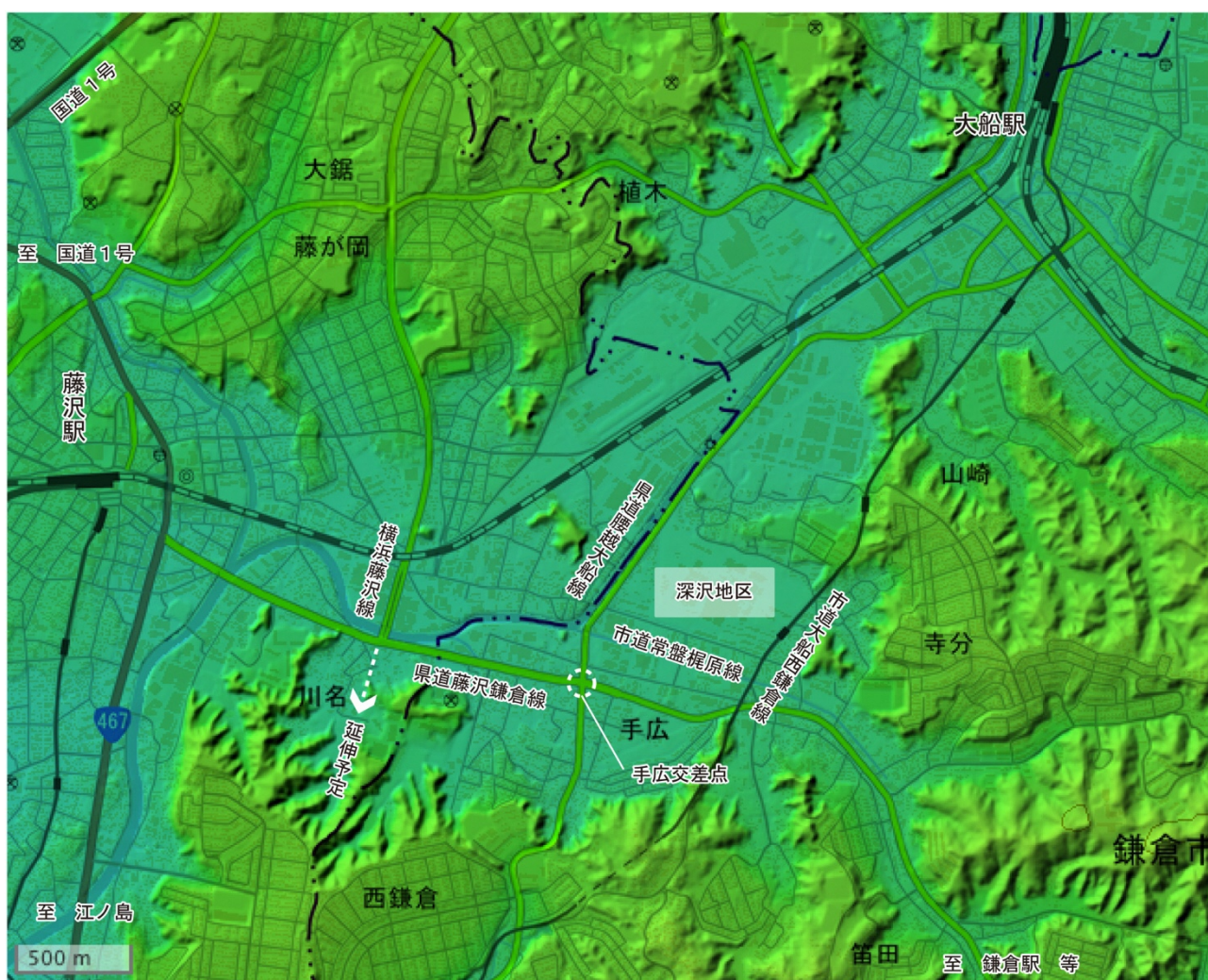
## イ. 深沢地区周辺

深沢地区外周道路の市道大船西鎌倉線、県道腰越大船線、市道常盤梶原線は、いずれも片側1車線の交互通行であり、自動車によるアクセス性は高いですが、広域からの自動車動線としては弱いです。

深沢地区から藤沢駅方面、鎌倉駅方面へのアクセスは県道藤沢鎌倉線（片側1車線）のみとなるため、大船駅方面と江ノ島方面を結ぶ県道腰越大船線と県道藤沢鎌倉線と交差する手広交差点は、混雑すると想定されます。

深沢地区東側は丘陵地帯であり、交通量が増加すると予想されます。

### 【深沢地区周辺の道路の状況】



出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

(標準地図と色別標高図を重合せ、さらに加工して作成)

## ウ. 深沢地区を含めた広域

深沢地区周辺の道路は、国道及び駅周辺の道路を中心に混雑度が 1.0 を超えている区間が多く見受けられます。平日・休日で交通量及び混雑度にほとんど差がない状況になっています。（下図参照）

大船・藤沢駅間東海道線新駅西側では、都市計画道路横浜藤沢線の整備が進められており、これが完成すれば、鎌倉市内への通過交通の流入が減少することで、深沢地区周辺も交通量が減少すると想定しています。

### 【周辺道路ネットワーク・混雑状況】



出典：村岡・深沢地区総合交通戦略 資料編（平成 28 年 3 月）

### 【混雑度について】

- 1.00 以下：道路が混雑することなく、円滑に走行できる。
- 1.00-1.25：道路が混雑する可能性のある時間帯が 1~2 時間あるものの、何時間も混雑が連続する可能性は小さい。
- 1.25-1.75：ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。
- 1.75-2.00：慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 50%に達する。
- 2.00 以上：慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 70%に達する。

## ②公共交通の現況・課題

### ア. 鉄道

深沢地区で利用できる駅は、湘南モノレールの湘南深沢駅だけとなっており、広域からのアクセスは JR 大船駅経由となり、アクセスしにくい状況です。ただし、大船・藤沢駅間東海道線新駅が完成すれば、広域からのアクセス性は高まります。

### イ. バス交通

深沢地区西側の県道腰越大船に「神戸製鋼前」バス停、東側の市道大船西鎌倉線に「大船工場」バス停、南側の市道常盤梶原線に「八丁面」バス停があります。

「神戸製鋼前」バス停からは、大船駅、鎌倉駅、藤沢駅、江ノ島などに、「大船工場」バス停からは、大船駅、鎌倉駅、江ノ島などに、「八丁面」バス停からは、藤沢駅などにアクセスできます。

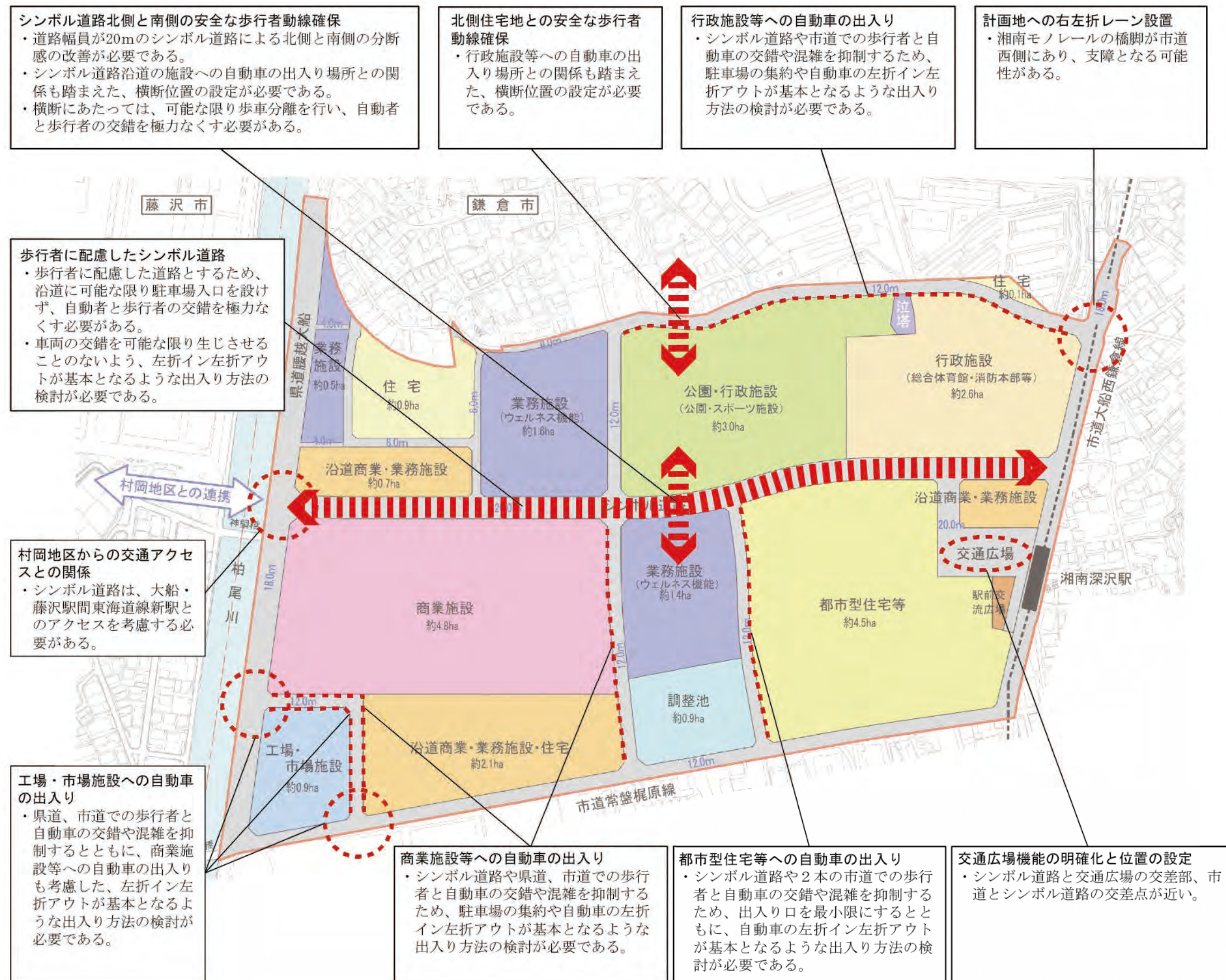
#### 【バス交通について】

| 深沢地区<br>最寄のバス停               | 運営会社                          | 系統              | 行き先                   |
|------------------------------|-------------------------------|-----------------|-----------------------|
| 神戸製鋼前<br>(神鋼橋周辺)             | 江ノ電<br>バス(江ノ<br>島 電 鉄<br>(株)) | 藤沢駅～湘南車庫(片瀬山経由) | 藤沢駅南口、湘南車庫            |
|                              |                               | 藤沢駅～湘南車庫(手広経由)  | 藤沢駅南口、湘南車庫            |
|                              |                               | 藤沢駅～長島          | 藤沢駅南口、長島              |
|                              |                               | 鎌倉駅～湘南車庫        | 湘南車庫、鎌倉駅東口            |
|                              |                               | 藤沢駅～大船駅(手広経由)   | 大船駅東口交通広場、藤沢駅南口       |
|                              |                               | 大船駅～江ノ島         | 江ノ島、大船駅東口交通広場         |
|                              |                               | 大船～新鎌倉山循環       | 大船駅東口交通広場             |
|                              |                               | 大船駅～津村          | 大船駅東口交通広場、津村          |
|                              |                               | 津村～新鎌倉山～大船駅     | 大船駅東口交通広場、津村          |
| 大船工場<br>(湘南モノレール<br>湘南深沢駅直近) | 京 浜 京 急<br>バス(株)              | 船 2             | 大船駅、梶原                |
|                              |                               | 船 3             | 大船駅、富士見台              |
|                              |                               | 船 4             | 大船駅、鎌倉山               |
|                              |                               | 船 5             | 大船駅(西鎌倉経由)、諏訪ヶ谷(津村経由) |
|                              |                               | 船 6             | 大船駅、江ノ島               |
|                              |                               | 船 7、8、9         | 大船駅、鎌倉駅(東口)           |
| 八丁面<br>(深沢地区南側)              | 江ノ電<br>バス(江ノ<br>島 電 鉄<br>(株)) | 教養センター循環        | 藤沢駅南口、教養センター          |
|                              |                               | 教養センター～藤沢駅      |                       |
|                              |                               | 藤沢駅～笛田 4 番      | 笛田 4 番                |

※一般社団法人神奈川県バス協会ホームページでの一般路線バス検索により調査

【深沢地区周辺のバス停の位置】





## (参考) 深沢地区周辺の骨格的な道路網について

### ア. 都市計画道路横浜藤沢線

深沢地区の西側を南北に縦断しています。

現在のところ、藤沢鎌倉線以南は未整備となっており、県、横浜市及び藤沢市が協調しつつ、整備の促進を図ることとされています。

### イ. 市の西部を通過する骨格的な幹線道路の整備検討

大船駅周辺及び深沢地域国鉄跡地周辺の拠点整備及び海岸部の交通機能強化に対応するため、市街地環境や緑の保全、市街地の分断、沿道の修景・景観形成に配慮しつつ、海岸部から深沢地域国鉄跡地周辺を通り、高速横浜環状南線方面に抜ける骨格的な幹線道路の整備を検討します。

この道路は、海岸部や丘陵部から深沢、大船方面へのアクセス向上、鎌倉地域への自動車流入抑制といった効果を持ちます。

具体的なルートや構造については今後検討を行い、市民等に対して、その必要性・整備効果を十分説明し、合意形成を図った上で、具体的な都市計画としての手続を進めます。

#### 【深沢地区周辺の骨格的な道路網】



## (2) 環境

### ① 自然環境

#### ア. 緑

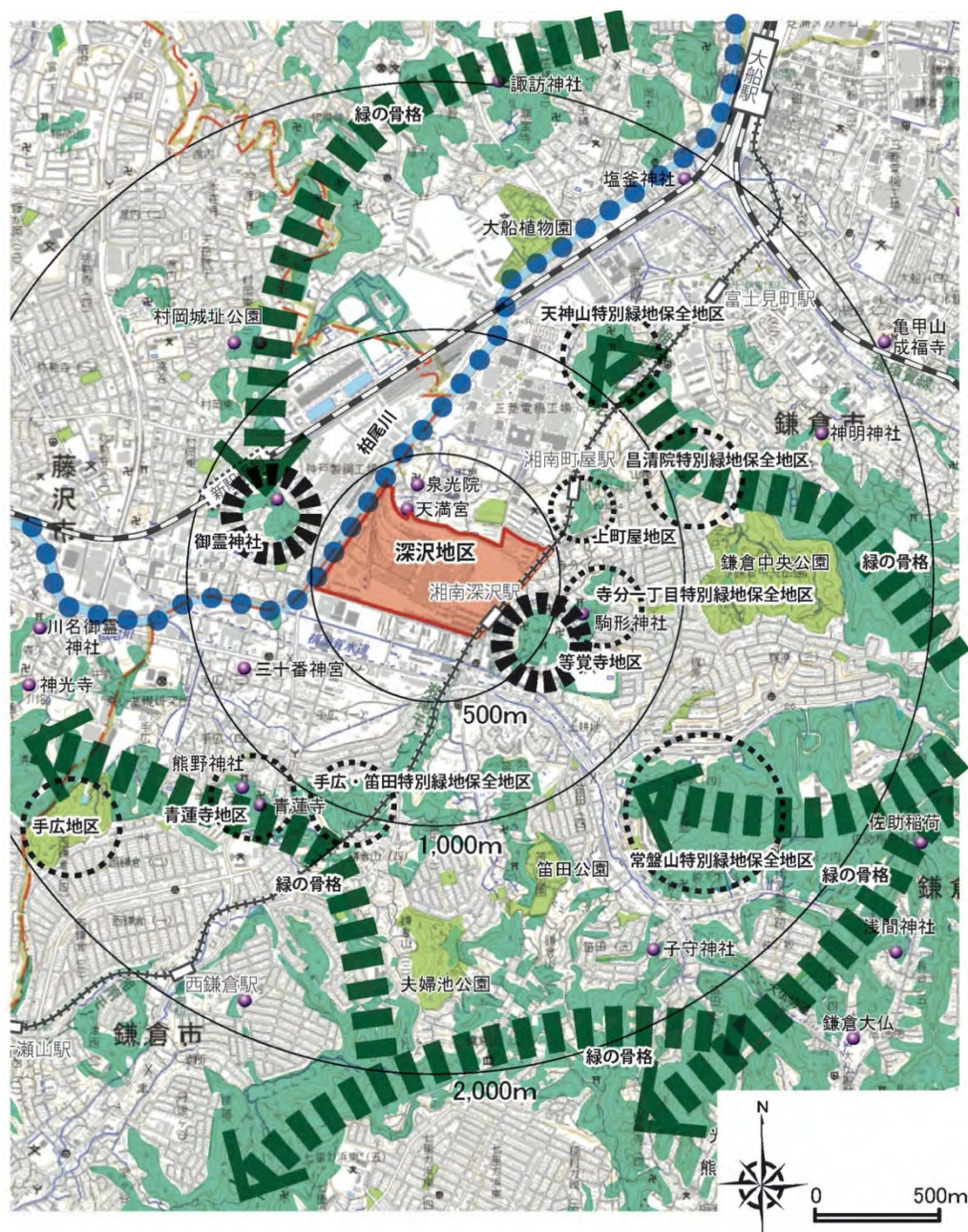
深沢地区は、緑の骨格に取り囲まれています。

事業区域は、東西の緑地に挟まれています（御霊神社、等覚寺）。

#### イ. 水

事業区域の西側に、柏尾川が隣接しています。（事業区域の南側に、梶原川が隣接していますが、深沢地区の整備と合わせて、道路機能の強化のためボックス化する予定です。）

#### 【深沢地区を取り巻く緑の水の状況】



## ②歴史資源

### ア. 洲崎古戦場碑

【洲崎古戦場碑、泣塔について】

1333 年（元弘 3 年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時にこの地で激しく戦いました。山崎・上町屋・寺分・梶原の一带を洲崎郷と呼んでいました。

### イ. 泣塔

丘の上に、泣塔と呼ばれる石造の宝篋印塔（ほうきょいんとう）と、その後ろのやぐらの中に数基の五輪塔があります。

これらの石塔は、1333 年（元弘 3 年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時の洲崎の合戦における戦死者の霊を慰めるために、23 回忌の 1356 年（延文元年）に建てられた供養塔であるといわれています。

泣塔は、まとまったよい形の塔であるのに加え、基礎の石にはっきりと文和 5 年（1356 年）の年号が刻まれており、塔そのものが文化財として大変価値のあるものです。



### ウ. 天満宮

平安時代の天慶年間（938～946 年）に、藤沢の村岡にいた平良文という武士が、夢のお告げで天神をまつたのがはじまりといわれています。

### エ. 深沢の名前の由来

江戸時代の『江島大草子（えのしまおおぞうじ）』に「鎌倉から海月（くらげ）（横浜市金沢区方面）にかけて長い湖があり、その周囲四十余里もあって、これを『深沢』と呼び、水を満々とたたえた」と書かれています。

縄文時代以前は、今の深沢から大船にかけて深い入り江があったと考えられており、『深沢』の地名は、この湖に由来しているといわれています。

### (3) 社会

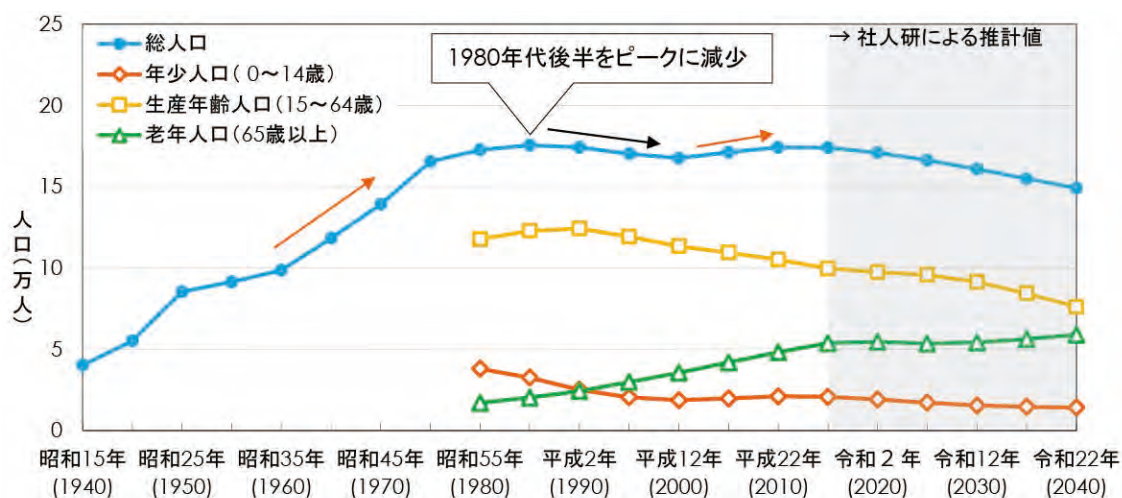
#### ① 鎌倉市の人口等の状況

##### ア. 総人口と年齢3区分別人口の推移

鎌倉市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値では、平成 27（2015）年から減少することとなっています。

年齢3区分別の人口推移をみると、生産年齢人口と年少人口は減少を続けますが、老年人口は継続して増加しています。

#### 【人口の推移】



| 国勢調査による実績値 ← 社人研による推計値 |    |                 |                 |                |                |                 |                 |                 |                 |                |                |                 | (人)             |                 |
|------------------------|----|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
|                        |    | 昭和55年<br>(1980) | 昭和60年<br>(1985) | 平成2年<br>(1990) | 平成7年<br>(1995) | 平成12年<br>(2000) | 平成17年<br>(2005) | 平成22年<br>(2010) | 平成27年<br>(2015) | 令和2年<br>(2020) | 令和5年<br>(2025) | 令和12年<br>(2030) | 令和17年<br>(2035) | 令和22年<br>(2040) |
| 総人口(人)                 |    | 172,629         | 175,495         | 174,307        | 170,329        | 167,583         | 171,158         | 174,314         | 174,050         | 170,947        | 166,336        | 160,867         | 154,974         | 148,992         |
| 年少人口<br>(0～14歳)        | 人数 | 37,929          | 32,474          | 24,991         | 20,379         | 18,590          | 19,590          | 20,944          | 20,642          | 19,076         | 17,067         | 15,385          | 14,494          | 14,037          |
|                        | 割合 | 22.0%           | 18.5%           | 14.4%          | 12.0%          | 11.1%           | 11.5%           | 12.0%           | 11.9%           | 11.2%          | 10.3%          | 9.6%            | 9.4%            | 9.4%            |
| 生産年齢人口<br>(15～64歳)     | 人数 | 117,642         | 122,811         | 124,241        | 119,254        | 113,409         | 108,607         | 105,184         | 99,654          | 97,402         | 95,783         | 91,376          | 84,284          | 76,102          |
|                        | 割合 | 68.2%           | 70.0%           | 71.6%          | 70.4%          | 67.7%           | 63.9%           | 60.4%           | 57.3%           | 57.0%          | 57.6%          | 56.8%           | 54.4%           | 51.1%           |
| 老年人口<br>(65歳以上)        | 人数 | 16,967          | 20,136          | 24,212         | 29,777         | 35,573          | 41,722          | 48,108          | 53,754          | 54,469         | 53,486         | 54,106          | 56,196          | 58,853          |
|                        | 割合 | 9.8%            | 11.5%           | 14.0%          | 17.6%          | 21.2%           | 24.6%           | 27.6%           | 30.9%           | 31.9%          | 32.2%          | 33.6%           | 36.3%           | 39.5%           |
| 老年人口比率                 |    | 14.4%           | 16.4%           | 19.5%          | 25.0%          | 31.4%           | 38.4%           | 45.7%           | 53.9%           | 55.9%          | 55.8%          | 59.2%           | 66.7%           | 77.3%           |

出典：総務省統計局 国勢調査 昭和 55（1980）年～平成 22（2010）年の総人口（総人口数は外国人・年齢不詳を含めているが、年齢3区分別人口に関しては、年齢不詳人口を含めていない。）  
社人研 日本の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年 3 月） 平成 27（2015）年以降の総人口

参考：鎌倉市人口ビジョン 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月）

## イ. 人口の将来展望

「働くまち」、「住みたい・住み続けたいまち」鎌倉としての魅力を確立し、「出生率の向上による自然減の克服」と「転入超過の継続」が実現した場合、鎌倉市における将来人口は次のとおりとされています。

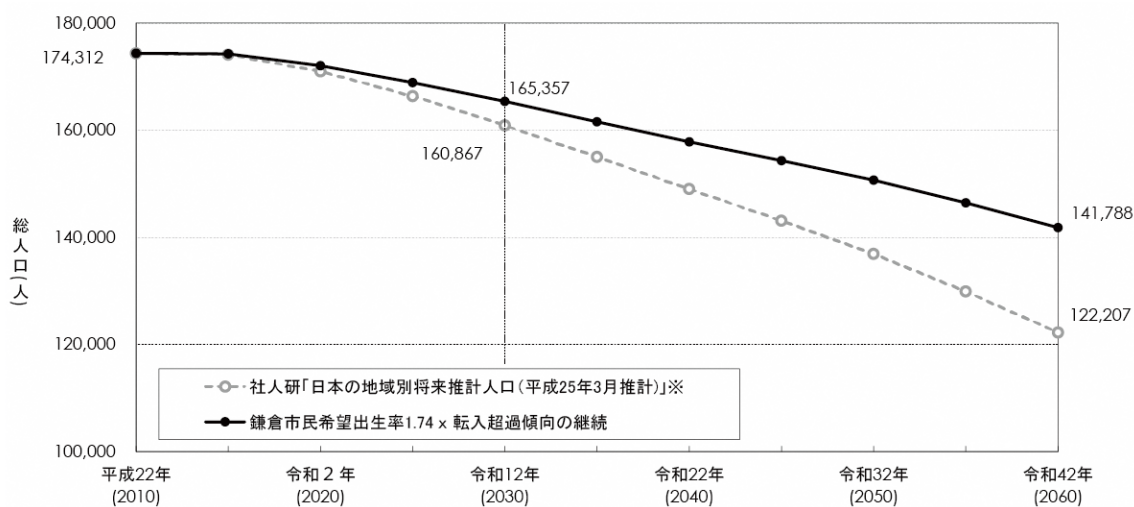
### 【鎌倉市の将来人口推計】

(将来展望の推計条件)

| 将来展望の推計条件 |                                                                      |
|-----------|----------------------------------------------------------------------|
| 合計特殊出生率   | 出産等に関する希望が叶えられた場合、アンケート調査より導出される「希望出生率」1.74が達成される。<br>※2030年に達成として算出 |
| 社会移動率     | ここ10年間の転入超過傾向が継続し、2010年→2015年の社会移動（年に600人程度増加）率が継続して推移する。            |

(人口推計)

| 将来展望における鎌倉市の総人口 |          |
|-----------------|----------|
| 令和12(2030)年     | 165,357人 |
| 令和42(2060)年     | 141,788人 |



※社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」に準拠し、令和22（2040）年以降の出生率、社会移動率を一定として算出した。

参考：鎌倉市人口ビジョン 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月）

## ウ. 市内各地域の人口構成

深沢地域は、全市と比較して生産年齢人口の割合は低く、年少人口と老年人口の割合は高くなっています。各割合は、その他の地域と比較して、大きく突出したものではありません。

【市内各地域の人口】

|        |    | 深沢地域   | 鎌倉地域   | 腰越地域   | 大船地域   | 玉縄地域   | 全市      |
|--------|----|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 0-14歳  | 人数 | 4,154  | 5,469  | 2,584  | 5,306  | 3,042  | 20,555  |
|        | 割合 | 12.1%  | 11.4%  | 10.3%  | 12.0%  | 12.1%  | 11.7%   |
| 15-64歳 | 人数 | 19,361 | 26,610 | 13,862 | 26,910 | 15,028 | 101,771 |
|        | 割合 | 56.5%  | 55.7%  | 55.4%  | 61.0%  | 59.5%  | 57.7%   |
| 65歳以上  | 人数 | 10,732 | 15,722 | 8,591  | 11,882 | 7,168  | 54,095  |
|        | 割合 | 31.3%  | 32.9%  | 34.3%  | 26.9%  | 28.4%  | 30.7%   |



出典：平成 30 年 9 月末日現在の地域別・町丁字別の年齢別人口（住民基本台帳）、位置図  
(いずれも鎌倉市ホームページ)

## ②藤沢市の人口等の状況

### ア. 総人口と年齢 3 区分別人口の推移

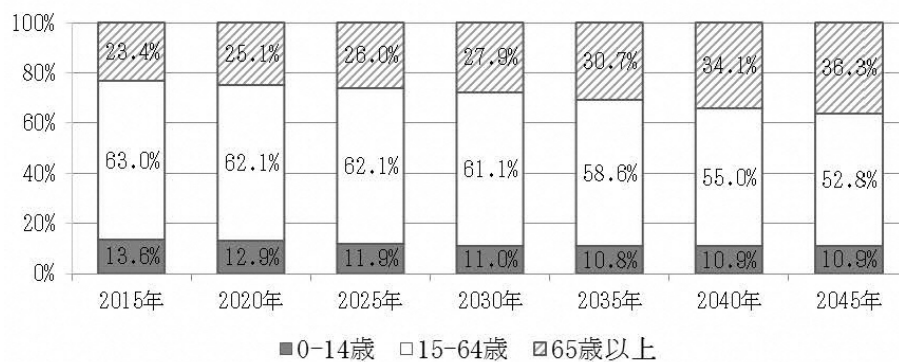
藤沢市の総人口は、「藤沢市将来人口推計について」では、2020 年から減少することとなっています。

年齢 3 区分別の人口推移をみると、生産年齢人口と年少人口は減少を続けますが、老年人口は継続して増加しています。

【2017 年度藤沢市将来人口推計（総人口の推計）】



# 【年齢3区分別の構成比の推移】



|        | 2015年   | 2020年   | 2025年   | 2030年   | 2035年   | 2040年   | 2045年   |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 0-14歳  | 57,642  | 55,896  | 52,394  | 48,847  | 47,688  | 47,796  | 47,699  |
| 15-64歳 | 267,015 | 270,094 | 273,949 | 271,470 | 259,683 | 242,297 | 230,503 |
| 65歳以上  | 99,237  | 108,988 | 114,788 | 123,751 | 135,981 | 150,385 | 158,387 |
| 合計     | 423,894 | 434,978 | 441,131 | 444,068 | 443,352 | 440,478 | 436,589 |

出典：藤沢市将来人口推計（平成30年4月）

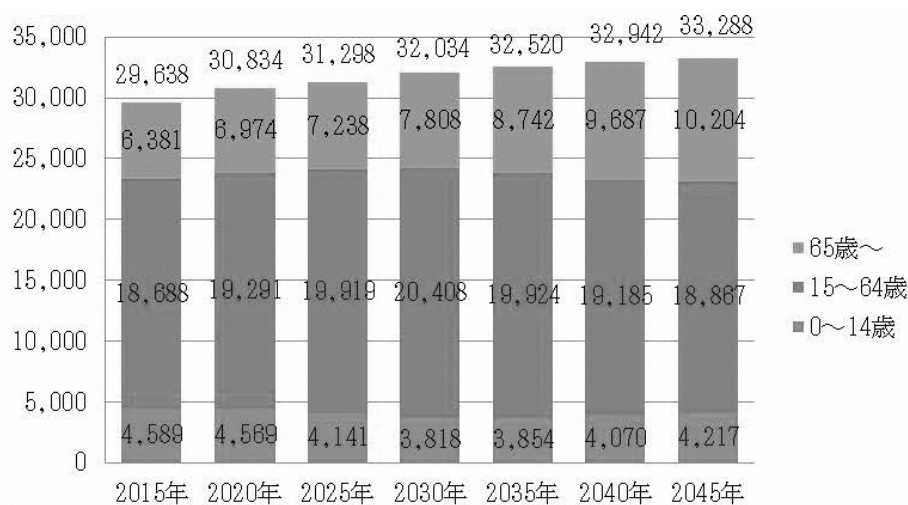
## イ. 村岡地区の人口推計

藤沢市の総人口は、「藤沢市将来人口推計について」では、2045 年まで増加することとなっています。

年齢 3 区分別の人口推移をみると、生産年齢人口は 2030 年まで増加しそれ以降 2045 年まで減少、年少人口は 2030 年まで減少し、それ以降 2045 年までは増加、老年人口は継続して増加となっています。

地区別（全 13 地区）で見ると、2045 年まで人口が増加するのは、村岡地区の他、藤沢地区、明治地区、六会地区、遠藤地区の 4 地区となっています。

### 【村岡地区の年齢 3 区分別の構成比の推移】



|        | 2015年 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 0～14歳  | 15.5% | 14.8% | 13.2% | 11.9% | 11.9% | 12.4% | 12.7% |
| 15～64歳 | 63.1% | 62.6% | 63.6% | 63.7% | 61.3% | 58.2% | 56.7% |
| 65歳～   | 21.5% | 22.8% | 23.1% | 24.4% | 26.8% | 29.4% | 30.7% |

出典：藤沢市将来人口推計（平成 30 年 4 月）

### 【2045 年まで人口が増加する 5 地区（赤枠）】



## (4) 産業

### ① 鎌倉市の産業について

(鎌倉市人口ビジョン 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 28 年 3 月より))

#### ア. 民営事業所の産業別の事業所数及び従業者数と増減数

平成 21 (2009) 年と平成 26 (2014) 年の事業所及び従業者の増減数を比べると、市全体では、事業所数で-325 件、従業者数で-1,967 人と減少傾向となっています。

全体的に微増もしくはマイナスの変化をしている中、産業別にみると、「P 医療, 福祉」で事業所が 79 件、従業者で 2,271 人の増加となっています。また、「O 教育, 学習支援業」では、事業所が 22 件、従業者が 518 人の増加となっています。抱える従業者数をみると、「I 卸売業, 小売業」「P 医療, 福祉」「M 宿泊業, 飲食サービス業」「E 製造業」が多くを占めています。

#### 【鎌倉市における民営事業所の産業別の事業所数及び従業者数と増減数】

| 産業大分類               | 平成21年<br>(2009) |                 | 平成26年<br>(2014) |                 | 増減数<br>(21年→26年) |                 |
|---------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|
|                     | 事業<br>所数        | 従業<br>者数<br>(人) | 事業<br>所数        | 従業<br>者数<br>(人) | 事業<br>所数         | 従業<br>者数<br>(人) |
| 全産業                 | 7,764           | 70,916          | 7,439           | 68,949          | -325             | -1,967          |
| A～B 農林漁業            | 8               | 34              | 12              | 69              | 4                | 35              |
| C 鉱業, 採石業, 砂利採取業    | 0               | 0               | 0               | 0               | 0                | 0               |
| D 建設業               | 525             | 3,162           | 455             | 1,992           | -70              | -1,170          |
| E 製造業               | 256             | 8,807           | 218             | 7,964           | -38              | -843            |
| F 電気・ガス・熱供給・水道業     | 2               | 135             | 2               | 123             | 0                | -12             |
| G 情報通信業             | 154             | 4,567           | 136             | 3,382           | -18              | -1,185          |
| H 運輸業, 郵便業          | 83              | 3,065           | 82              | 2,483           | -1               | -582            |
| I 卸売業, 小売業          | 2,144           | 14,269          | 2,050           | 14,033          | -94              | -236            |
| J 金融業, 保険業          | 100             | 1,202           | 92              | 1,309           | -8               | 107             |
| K 不動産業, 物品賃貸業       | 866             | 2,731           | 779             | 2,359           | -87              | -372            |
| L 学術研究, 専門・技術サービス業  | 420             | 4,133           | 367             | 4,316           | -53              | 183             |
| M 宿泊業, 飲食サービス業      | 1,282           | 9,948           | 1,257           | 9,746           | -25              | -202            |
| N 生活関連サービス業, 娯楽業    | 578             | 3,173           | 582             | 3,018           | 4                | -155            |
| O 教育, 学習支援業         | 336             | 3,168           | 358             | 3,686           | 22               | 518             |
| P 医療, 福祉            | 559             | 9,233           | 638             | 11,504          | 79               | 2,271           |
| Q 複合サービス事業          | 27              | 271             | 26              | 408             | -1               | 137             |
| R サービス業(他に分類されないもの) | 424             | 3,018           | 385             | 2,557           | -39              | -461            |

出典：総務省統計局経済センサス（平成 21（2009）年・平成 26（2014）年）

## イ. 鎌倉市の雇用や就労等の状況

就業者数における産業別特化係数\*（1.0 を超えると全国平均よりも雇用の場が提供されている）を比較すると、男性では「G 情報通信業」が際立って高い傾向にあります。続いて、男女ともに「L 学術研究、専門・技術サービス業」が高い数値を示しており、次いで「M 宿泊業、飲食サービス業」が高くなっています。

「M宿泊業、飲食サービス業」の産業別特化係数が上位になっている比較都市は、他に藤沢市〈女性〉・小田原市〈男女〉のみであり、観光地としての特徴がみられます。

### 【鎌倉市における産業別の産業別特化係】

|                     | 鎌倉市  |      |
|---------------------|------|------|
|                     | 男    | 女    |
| A 農業, 林業            | 0.24 | 0.12 |
| B 漁業                | 0.38 | 0.41 |
| C 鉱業, 採石業, 砂利採取業    | 0.00 | 0.00 |
| D 建設業               | 0.68 | 0.63 |
| E 製造業               | 0.97 | 0.63 |
| F 電気・ガス・熱供給・水道業     | 0.93 | 0.52 |
| G 情報通信業             | 2.20 | 1.27 |
| H 運輸業, 郵便業          | 0.86 | 0.52 |
| I 卸売業, 小売業          | 0.82 | 1.07 |
| J 金融業, 保険業          | 0.63 | 0.82 |
| K 不動産業, 物品賃貸業       | 1.47 | 1.53 |
| L 学術研究, 専門・技術サービス業  | 2.11 | 1.58 |
| M 宿泊業, 飲食サービス業      | 1.60 | 1.45 |
| N 生活関連サービス業, 娯楽業    | 1.12 | 0.89 |
| O 教育, 学習支援業         | 1.29 | 1.42 |
| P 医療, 福祉            | 1.40 | 1.10 |
| Q 複合サービス事業          | 0.61 | 0.72 |
| R サービス業(他に分類されないもの) | 0.95 | 0.81 |
| S 公務(他に分類されるものを除く)  | 0.89 | 1.43 |
| T 分類不能の産業           | 0.72 | 0.81 |

\* 産業別特化係数：X産業の特化係数＝当該地方公共団体のX産業の就業者比率÷全国のX産業の就業者比率。（地方人口ビジョンの策定のための手引き 平成 27（2015）年 1 月内閣府地方創生推進室）

出典：総務省統計局国勢調査（平成 22（2010）年）

## ②深沢地区周辺の主な企業分布について

深沢地区周辺には、グローバル企業の関係機関が立地し、近年機能強化を行う関係機関もあります。

武田薬品工業による湘南アイパークの開所、湘南鎌倉医療病院の先端医療センターの建設、湘南鎌倉医療大学（仮称）の開学（予定）によって、ヘルスケアや医療機能の集積が進んでいます。

### 【深沢地区周辺の主な企業分布】

#### 武田薬品工業（藤沢市にまたがって立地）

- ・昭和 38 年開設の湘南工場を平成 18 年に閉鎖、その後平成 23 年に工場跡地に湘南研究所を開設
- ・平成 30 年 4 月にヘルスケアにおけるオープンイノベーションを推進するため、湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）を開所、2023 年度までに同施設に 200 社を誘致する目標を掲げている

#### 湘南鎌倉総合病院

- ・医療法人沖縄徳洲会が運営
- ・病床数 619 床の鎌倉市内最大の病院
- ・救命救急センター指定病院、神奈川県災害協力病院、神奈川県 DMAT-L 指定病院等の指定を受ける。
- ・2021 年末に隣接する武田薬品工業湘南研究所の敷地を一部取得、先端医療センターを建設予定



#### 神戸製鋼所

（藤沢市に立地）

- ・現在は藤沢事業所になっている
- ・昭和 36 年に藤沢工場として開設
- ・溶接材料において国内でトップシェアを誇る溶接事業部門の研究開発拠点

#### 中外製薬

- ・鎌倉研究所が立地
- ・2022 年に横浜市戸塚区に先端的研究開発拠点新設予定

#### 三菱電機

- ・鎌倉製作所が立地
- ・主な業務内容は、人工衛星、宇宙用輸送システム等
- ・人工衛星の開発・製造など宇宙システム事業を強化するため、人工衛星の組み立てから試験までを行う「新衛星生産棟」を建設

#### 湘南鎌倉医療大学 （仮称）

- ・2020 年 4 月に開学予定
- ・看護学部・看護学科（入学定員 100 名）を設置予定
- ・学校法人徳洲会（仮称）が運営予定

### ③鎌倉駅周辺への IT 関連企業の集積

鎌倉市に本社を置く面白法人カヤックをはじめとする IT 関連企業が鎌倉地域に集積しています。

面白法人カヤックは、地域社会への取り組みとして、「カマコン」（地元 IT 関連企業等による地域活性化の活動）を展開し。有限責任事業組合（LLP）を 2013 年春に設立しました（会員企業は昨年 10 月時点で 21 社、個人会員は 66 人）。

「カマコン」から、鎌倉をよりよくするための活動に絞って、インターネット経由で小口資金を集める、クラウドファンディングサイト「iikuni（いいくに）」が生まれ、これをきっかけに起業する「エコシステム」も生まれました。

このような状況にあります。オフィスビルが少なく、開発する土地も限られていることから、オフィスビルの不足が課題となっています。

#### 【鎌倉地域における IT 関連企業の集積】



出典：日本経済新聞（平成 27 年 1 月 5 日）<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ081723040Y5A100C1X11000/>

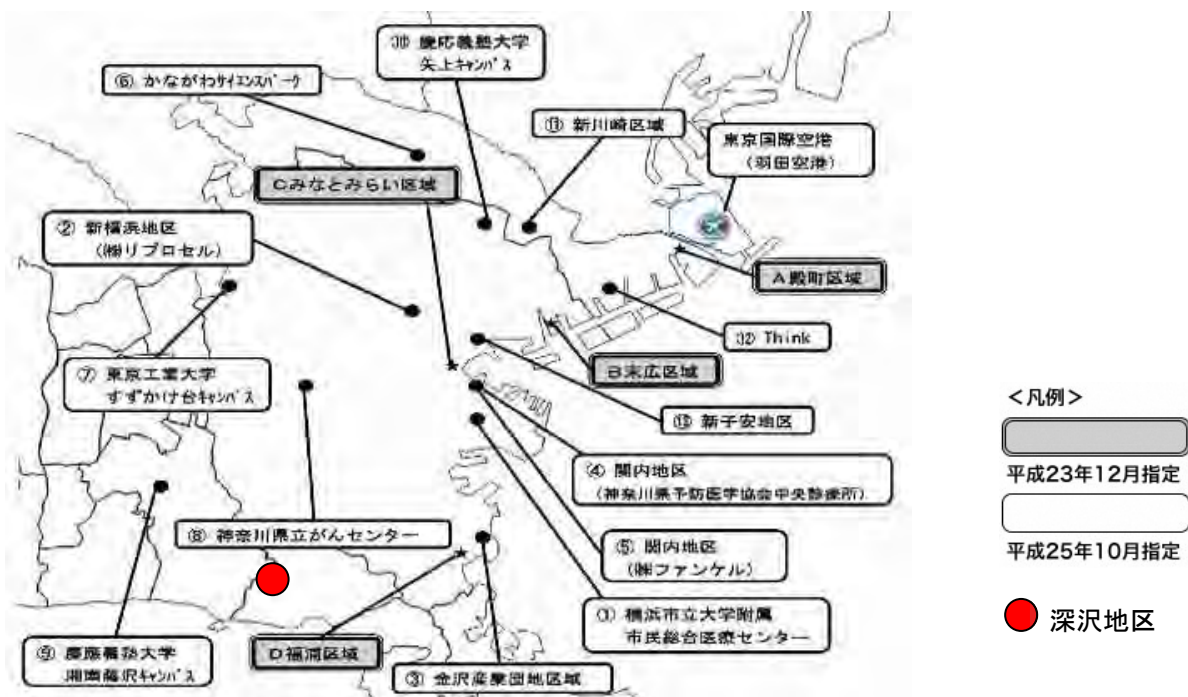
#### ④神奈川県における特区の状況

鎌倉市は、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区の中央に位置するとともに、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の17拠点に内包されるような場所に位置しています。

【鎌倉市深沢地区と京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区との位置】



【鎌倉市深沢地区と京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区に現在指定されている 17 拠点】



## (5) 健康・スポーツ

### ① 鎌倉市の健康

#### ア. 平均寿命と健康寿命

鎌倉市の平均寿命は、男性が 84.84 年、女性が 89.74 年で、県内でも上位になっています。

鎌倉市の健康寿命は、男性が 83.16 年、女性が 85.97 年です。

平均寿命と健康寿命の差（日常生活における不健康な期間）は、男性が 1.67 年、女性が 3.78 年となっています。

【鎌倉市の平均寿命と健康寿命】

|      |    | 平均寿命  | 健康寿命  | 平均寿命－健康寿命 |
|------|----|-------|-------|-----------|
| 鎌倉市  | 男性 | 84.84 | 83.16 | 1.67      |
|      | 女性 | 89.74 | 85.97 | 3.78      |
| 神奈川県 | 男性 | 84.08 | 82.34 | 1.73      |
|      | 女性 | 88.92 | 85.31 | 3.61      |
| 全国※  | 男性 | 79.55 | 70.42 | 9.13      |
|      | 女性 | 86.30 | 73.62 | 12.68     |

※健康日本 21（第 2 次）で公表されているもの

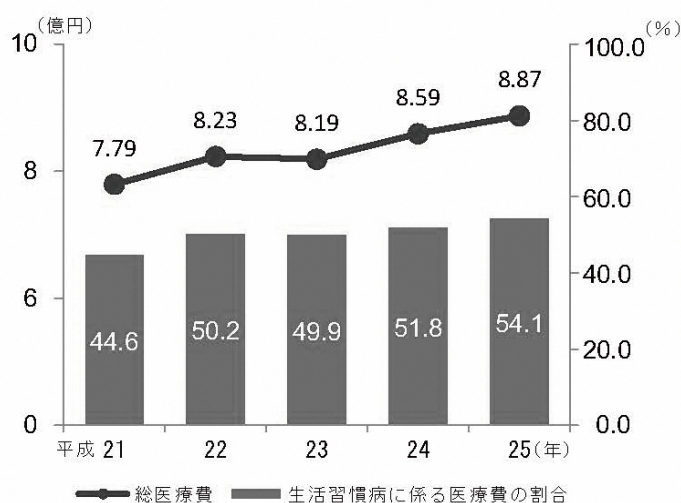
出典：鎌倉市健康づくり計画（平成 28 年 3 月）

#### イ. 総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合

鎌倉市国民健康保険被保険者の総医療費は、年々、増加しており、平成 25 年（5 月診療分）では約 8 億 9 千万円となっています。

そのうち、生活習慣病に係る医療費は約半分を占めており、その割合も増加傾向にあります。高齢者人口の増加に伴って、今後もさらに増加することが予測されています。

【鎌倉市の総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合】



出典：鎌倉市健康づくり計画（平成 28 年 3 月）

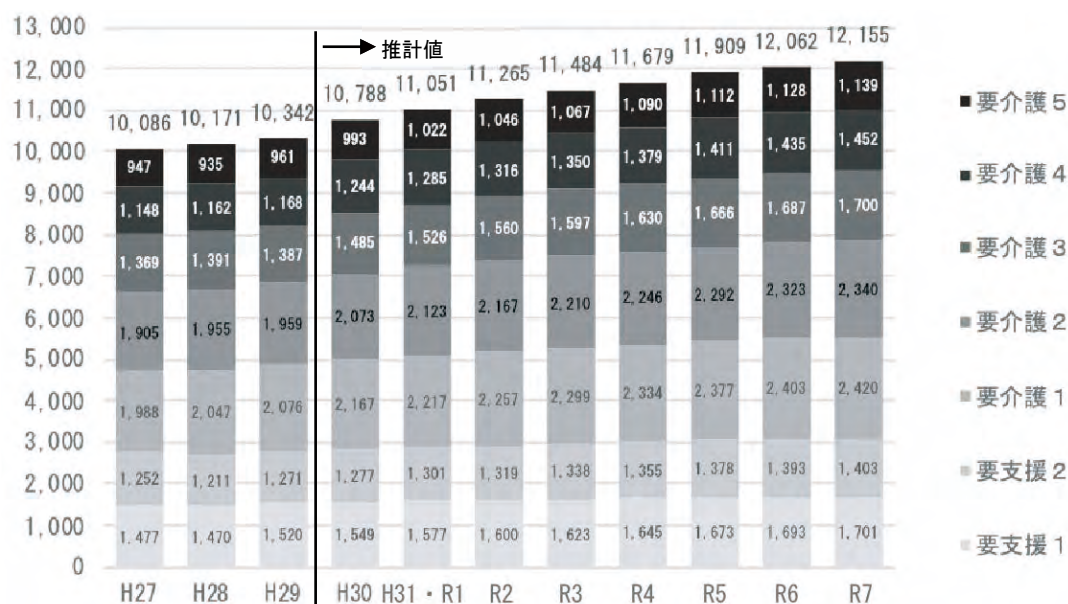
## ウ. 介護が必要な高齢者の将来予測

(平成 29 (2017) 年度) → 令和 7 (2025) 年度の比較)

要支援・要介護は、10,342 人から 12,155 人となり、約 17%増加することとなっています。

全面的な介護が必要とされる要介護 3 以上は、3,249 人から 4,934 人となり、約 22%の増加することとなっています。

【鎌倉市の総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合】



参考：鎌倉市高齢者保健福祉計画（平成 30 年度～令和 2 年度）（平成 30 年 3 月）

## ②スポーツ

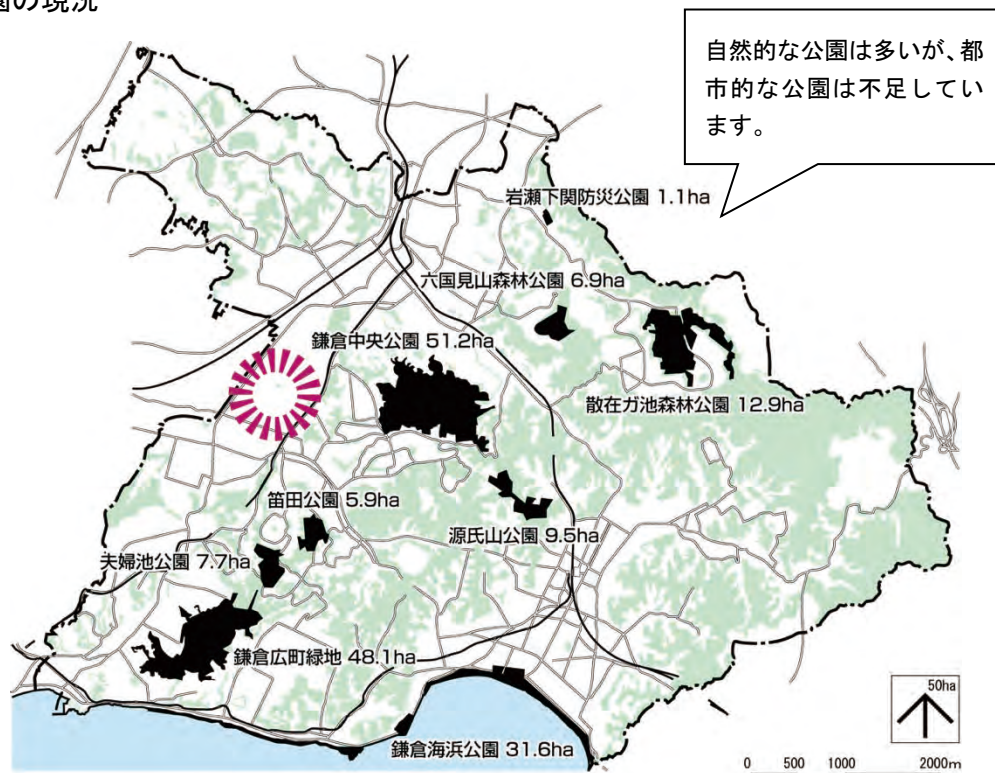
### ア. スポーツ施設・公園について

#### ●主なスポーツ施設の現況と再配置計画



（鎌倉市公共施設再編計画等より）

#### ●公園の現況

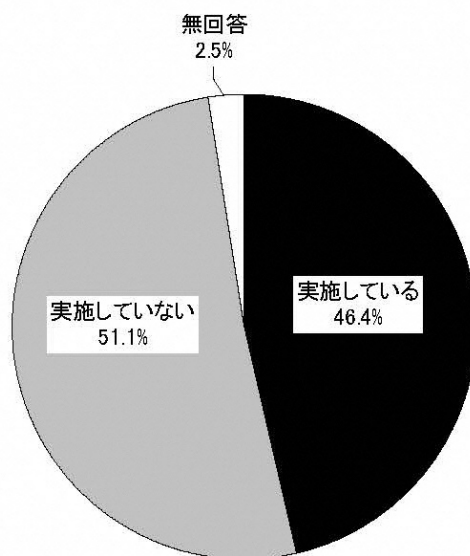


## イ. 市民のスポーツに対する意識

### ●スポーツ実施率

市民の半数以上が、運動習慣がありません。

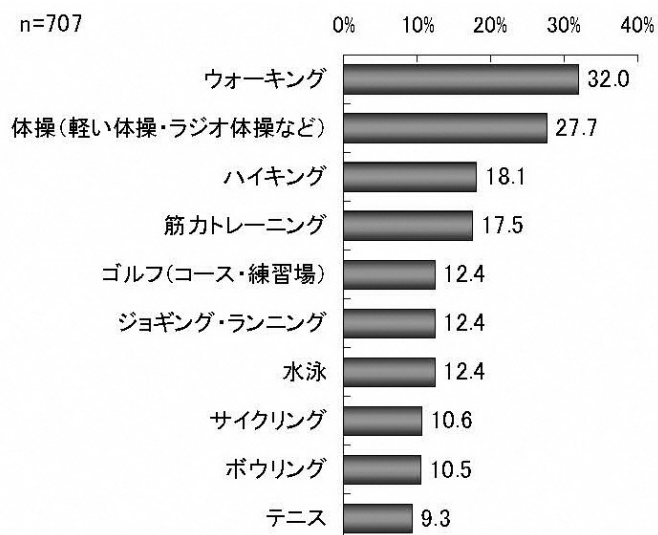
【1回30分以上の運動・スポーツを週1日以上実施している人の割合】



### ●過去1年間に行った運動・スポーツ

ウォーキングがトップ、次いで体操、ハイキングとなっています。

【過去1年間に行った運動・スポーツの割合】



## ●スポーツの実施回数、実施時間

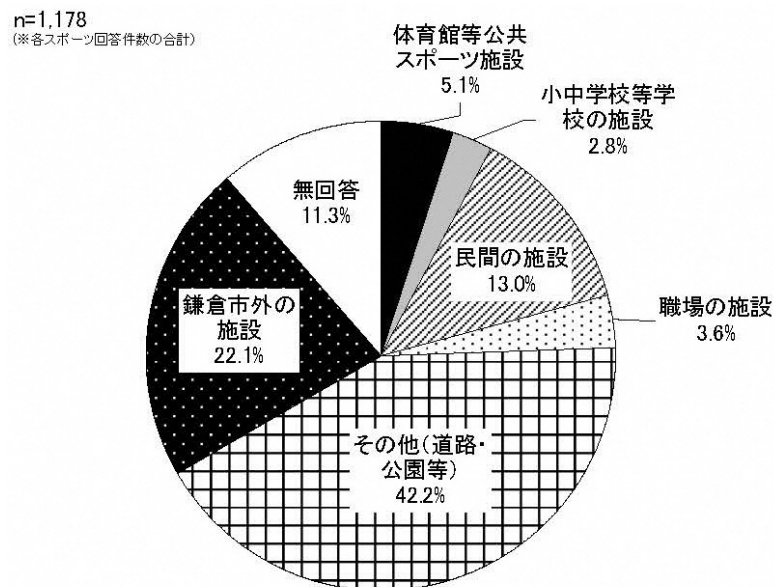
過去1年間に運動・スポーツを行った人について、週あたりの実施回数は、平均で3.52回となっています。「体操（軽い体操・ラジオ体操など）」が最も多く、次いで「ウォーキング」「筋力トレーニング」となっています。

・運動・スポーツの実施時間は、週あたりの平均で約247分（約4時間程度）となっています。「ウォーキング」が最も長く、次いで「サイクリング」「テニス」「ゴルフ（コース・練習場）」となっています。

## ●スポーツを行う際に利用している施設

利用している施設について、全体では「その他（道路・公園等）」（42.2%）が4割を超え最も高くなっています。

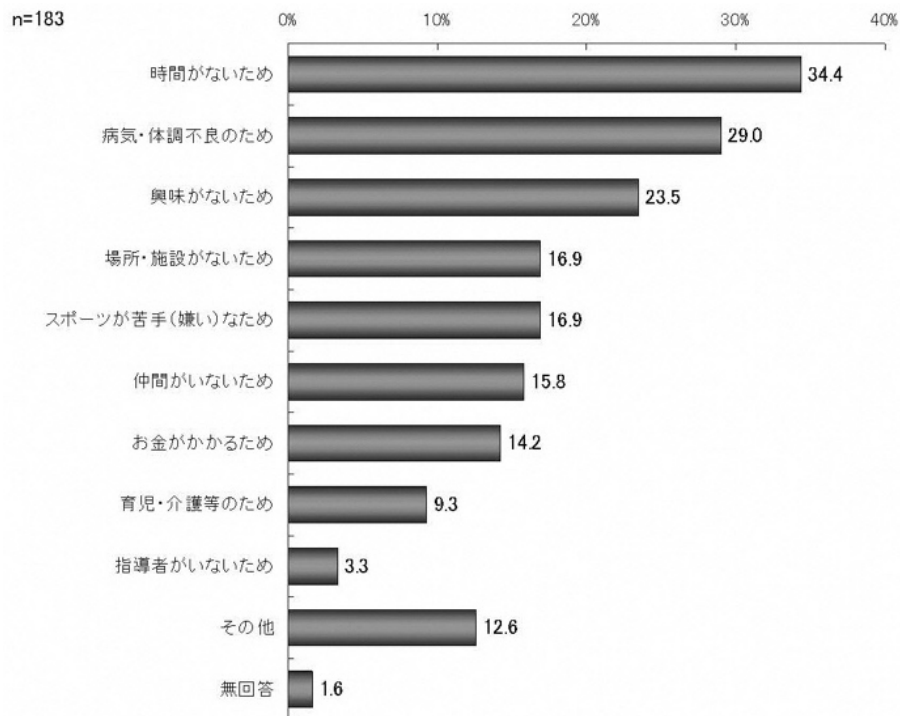
### 【スポーツを行う際に利用している施設の割合】



## ●スポーツを行わない理由

「時間がないため」(34.4%)が3割を超え最も高くなっています。次いで、「病気・体調不良のため」(29.0%)、「興味がないため」(23.5%)の順で続いています(「1年間スポーツは行わなかった」と回答した人が回答)。

### 【スポーツを行わない理由】



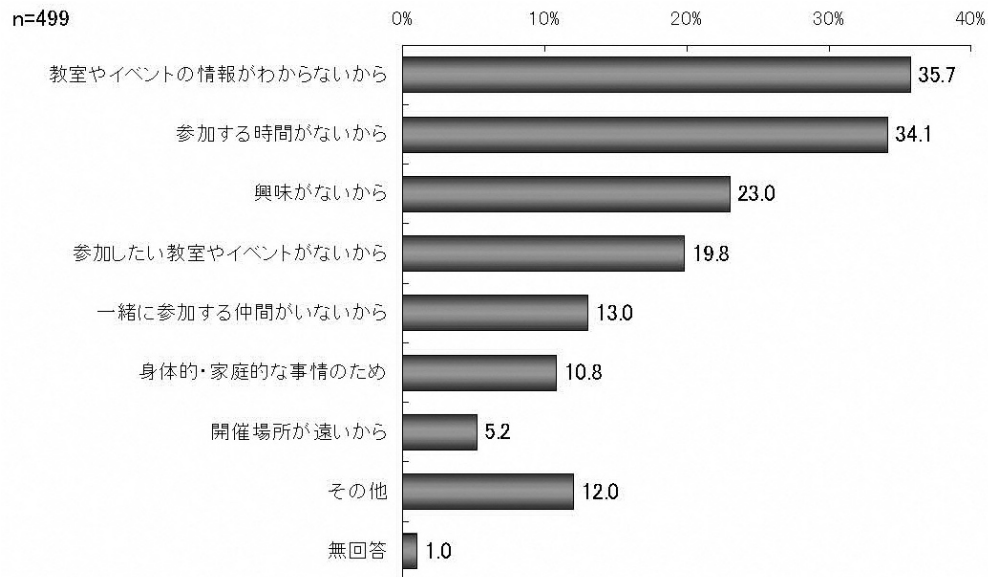
## ●スポーツ教室やイベントなどへの参加状況

「参加したことがない」が7割(70.6%)を超えます。

## ●スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由

スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由を聞いたところ、「教室やイベントの情報がわからないから」(35.7%)、「参加する時間がないから」(34.1%)が3割半ばで高くなっています。

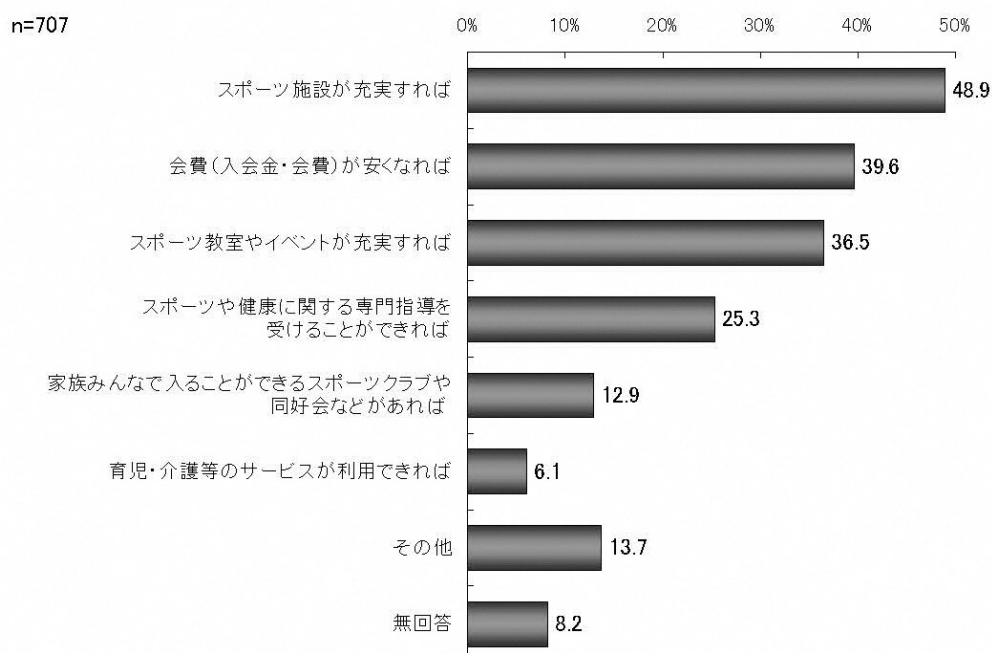
### 【スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由】



## ●スポーツに対するこれからのニーズ（必要性）

どのような条件が整えばより一層スポーツを行うようになると思うか聞いたところ、「スポーツ施設が充実すれば」(48.9%)が5割近くで最も高くなっています。

### 【スポーツに対するこれからのニーズ（必要性）】



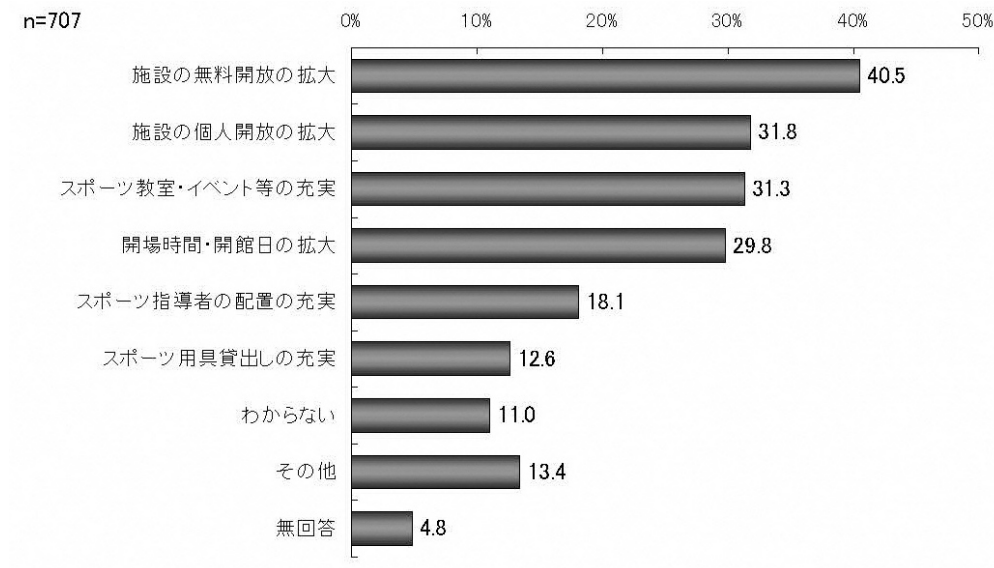
## ●スポーツ施設の利用

3割以上の方が「利用したことがない」と回答しており、その理由として「機会がない」「時間がない」「興味がない」「家から遠い」などが挙げられています。

## ●スポーツ施設の利用条件

「施設の無料開放の拡大」(40.5%)がほぼ4割で最も高くなっています。

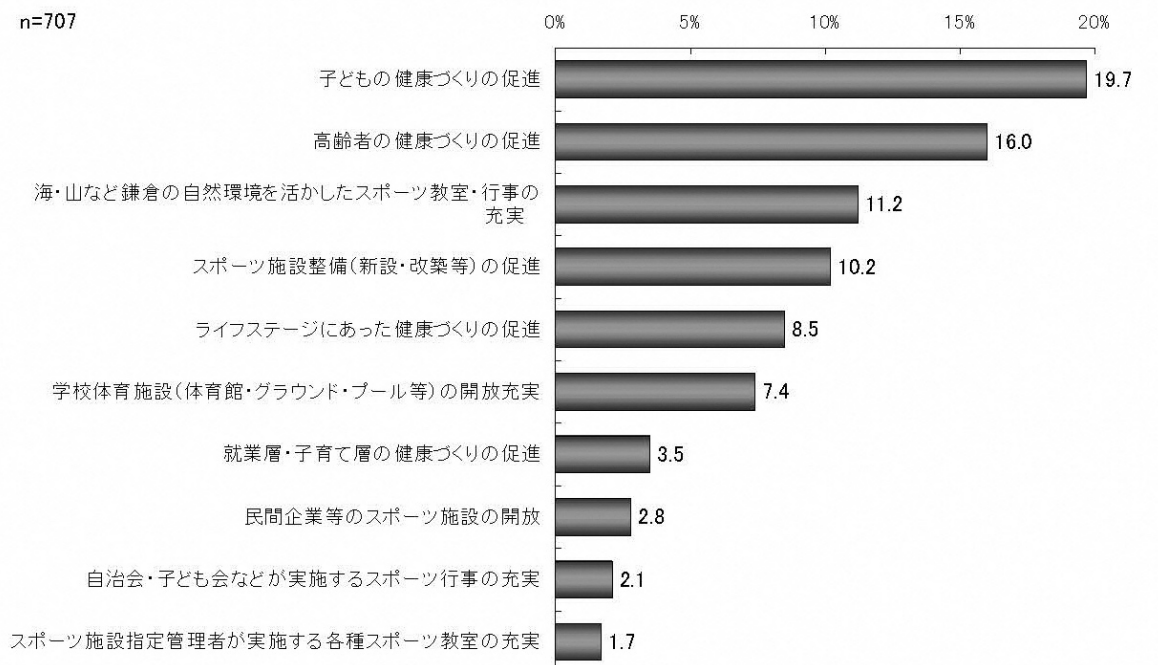
### 【スポーツ施設をより一層利用するようになるための条件】



## ●今後のスポーツ施策の推進について

市民のスポーツ活動を推進するために重視すべき施策については、「子どもの健康づくりの促進」(19.7%)が最も高く、次いで「高齢者の健康づくりの促進」(16.0%)となっています。

### 【今後、重視すべきスポーツ施策】



出典：市民のスポーツ活動に関するアンケート調査（平成 25 年度実施）

## (6) 現況・課題からコンセプトの具体化や修正土地利用計画(案)再点検で求められる内容

| 項目 |                        |            | 現況・課題の概要                                                                                                                                                                          | コンセプトの具体化や修正土地利用計画(案)再点検で求められる内容                             |
|----|------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 交通 | 自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の課題 | 深沢地区内      | ・現在の道路計画は、①シンボル道路をはじめとした各種道路における歩行者と自動車の輻輳（ふくそう）をできる限りの排除、②街区間の歩行者動線の確保、交通広場機能の明確化とそれを踏まえた配置、③県道や市道からの自動車の引き込み、④村岡地区とつながりが課題となっている。                                               | ・歩行者が安全で快適に通行できる環境の実現<br>・上記に資する自動車交通処理に関するハード・ソフト両面からの対策    |
|    |                        | 深沢地区周辺     | ・深沢地区外周道路は、いずれも片側1斜線の交互通行であり、広域からの自動車動線としては弱い。<br>・深沢地区から藤沢駅方面、鎌倉駅方面へのアクセスは県道藤沢鎌倉線（片側1車線）のみで手広交差点は混雑が想定される。<br>・深沢地区東側は丘陵地帯であり、道路環境はあまり良くない                                       | ・新交通システムの導入などによる深沢地区周辺とのアクセス性の向上<br>・周辺道路の混雑緩和に資する自動車交通処理の実現 |
|    |                        | 深沢地区を含めた広域 | ・深沢地区周辺の道路は、平日・休日で交通量及び混雑度にほとんど差がない状況。<br>・大船・藤沢駅間東海道線新駅西側の都市計画道路横浜藤沢線が完成すれば深沢地区から江ノ島方面へのアクセス性は向上。                                                                                |                                                              |
|    | 公共交通の現況・課題             | 鉄道         | ・深沢地区で利用できる駅は、湘南モノレールの湘南深沢駅のみでアクセスしにくい。<br>・大船・藤沢駅間東海道線新駅が完成すれば、広域からのアクセス性は高まる。                                                                                                   | ・バス網の再編や新型モビリティの導入の検討                                        |
|    |                        | バス         | ・地区外周にあるバス停からは、大船駅、鎌倉駅、藤沢駅、江ノ島にアクセス可能。                                                                                                                                            |                                                              |
| 防災 |                        | 津波         | ・現在想定されている地震モデル以上の地震の発生は低く、河川遡上も含め、事業区域の危険性は非常に低い。                                                                                                                                | ・津波、洪水・浸水、液状化、土砂災害の現況や想定を踏まえた、安心・安全なまちづくりに資するハード・ソフト両面からの対策  |
|    |                        | 洪水・浸水      | ・過去に実際に起こった年超過確率 1/100（24時間で302mm）の計画規模の降雨に対して、地区南西の工場・市場施設街区において、50cm未満の浸水が想定されている。<br>・一方、最大規模の想定である年超過確率 1/1000（24時間で632mm）の降雨に対しては、地区全域で0.5m未満～3mの浸水、地区南西部では3m～5mの浸水が想定されている。 |                                                              |
|    |                        | 液状化        | ・平成23年度に実施した地質調査等に基づいた液状化判定の結果において、地区南西部でFL>1となり『液状化の可能性あり』という判定が出ているが、PL値は1.48となり『液状化危険度が低い』という判定となっている。                                                                         |                                                              |
|    |                        | 土砂災害       | ・事業用地の一部が土砂災害警戒区域に指定されている。ただし、当該箇所は、今後擁壁を整備していく計画である。                                                                                                                             |                                                              |

| 項目      |               | 現況・課題の概要                                                                                                                                                                                                                                       | コンセプトの具体化や修正土地利用計画(案)再点検で求められる内容                                                                                                                                                                |
|---------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境      | 自然環境          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深沢地区は、御霊神社、等覚寺など緑の骨格に取り囲まれている。</li> <li>・深沢地区西側に柏尾川、南側に梶原川が隣接（ただし、梶原川は道路機能強化のためボックス化）。</li> </ul>                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深沢地区周辺の生態系や歴史を活かした緑や空間づくり</li> </ul>                                                                                                                    |
|         | 歴史資源          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・洲崎古戦場碑、泣塔、天満宮など歴史資源がある。泣塔は当地区内にある。</li> </ul>                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                 |
| 社会（人口）  | 鎌倉市・深沢地区      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉市の人口は既に人口減少の局面に入っており、今後減少していくことが想定される。</li> <li>・深沢地域は市全体と比較して、老年人口の割合（31.3%（平成30年9月））はやや高い。</li> </ul>                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深沢地区の新住民と旧住民が住んで良かったと感じられるまちづくり</li> <li>・来街者にとっても魅力のあるまちづくり</li> <li>・地域のコミュニティを育てる取組の実施（エリアマネジメント公共空間の維持管理、イベントなど）</li> </ul>                         |
|         | 藤沢市・村岡地区      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢市の人口は、2020年から減少すると想定されている。</li> <li>・村岡地区は2045年までは人口が増加すると想定されるが、老年人口の割合上昇していく。</li> </ul>                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                 |
| 産業      | 鎌倉市           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21（2009）年と平成26（2014）年の事業所及び従業者の増減数を比べると、市全体では、事業所数で-325件、従業者数で-1,967人と減少傾向。</li> <li>・鎌倉市は、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区の中央に位置。</li> <li>・鎌倉駅周辺へのIT関連企業の集積やカマコンの取組。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特区や深沢地区周辺のヘルスケアや医療機能の集積を踏まえた、ヘルスケア産業などの集積</li> <li>・鎌倉駅周辺へのIT関連企業との連携や立地</li> </ul>                                                                     |
|         | 深沢地区          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深沢地区周辺には、グローバル企業との関係機関や近年機能強化を行う関係機関も立地。</li> <li>・湘南アイパークの開所、湘南鎌倉医療病院の先端医療センターの建設、湘南鎌倉医療大学（仮称）の開学（予定）によって、ヘルスケアや医療機能の集積が進む</li> </ul>                                                                 |                                                                                                                                                                                                 |
| 健康・スポーツ | 健康            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉市の平均寿命、健康寿命は、県平均より高く、平均寿命は県内でも上位。</li> <li>・高齢者人口の増加に伴って、医療費や介護が必要な高齢者は増加していくと想定される。</li> </ul>                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命の延伸及び平均寿命と健康寿命の差の縮小</li> <li>・総合体育館などの新たな施設整備を踏まえた健康・スポーツのソフトの取組などの推進</li> <li>・ウォーキングによる健康づくりの促進</li> <li>・歩きたくなる空間づくり（ハード）や仕掛けづくり（ソフト）</li> </ul> |
|         | スポーツ（施設や市民意識） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深沢地区に総合体育館（屋内プールを併設）を新設予定。</li> <li>・市内の公園は自然的な公園は多いが、都市的な公園は不足。</li> <li>・スポーツに対する市民の意識については、市民の半数以上が、運動習慣がないと回答。過去1年間に行った運動・スポーツは、ウォーキングがトップ、次いで体操、ハイキング。（市民のスポーツ活動に関するアンケート調査（平成25年度実施））</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                 |

### 3. まちづくりのコンセプトの具体化

#### 1) 歴史的背景と「鎌倉らしさ」、「深沢らしさ」

緑豊かな丘陵と相模湾を臨む美しい海岸線に囲まれた鎌倉は、西に富士山や伊豆半島、東に三浦半島を眺望するなど、まちの内外に豊かな景観を抱えています。平地が少ない鎌倉市は、市域面積の4割超を樹林地が占めており、山稜の谷間を切り開いて平坦地を造成した谷戸の風景は、現代の鎌倉においても特徴的な地形のひとつであり、閑静な生活の場を形成しています。海岸線に目を向ければ、関東有数の海水浴場としても知られる材木座海岸、由比ヶ浜海岸には遠浅の砂浜が広がる一方で、稲村ヶ崎から七里ヶ浜にかけては、急峻な山稜が海際まで迫り、遠くに富士山を望む風景は浮世絵にも描かれた景勝地です。

歴史的には、日本で初めて本格的な武家政権が発祥した地である鎌倉においては、質実剛健を好む武家階級が新たに文化の担い手となったことにより、禅を中心とした中国の宋・元文化が積極的に取り入れられ、武家独自の気質が融合した独自の「武家文化」として発展しました。幕府の後押しもあり、盛んに建立された神社仏閣が古都鎌倉の象徴のひとつとして息づくほか、中世の道路網を踏襲した都市構造など、鎌倉は、時代の流れを反映した貴重な歴史的遺産が数多く残る国内有数の歴史都市となりました。

このように、豊かな自然環境と歴史的文化資源に恵まれた鎌倉は、都内への通勤圏内のベッドタウンとしての魅力にも秀でたことから、昭和30年代には、「昭和の鎌倉攻め」とも呼ばれる宅地造成の波が市内の至る所に押し寄せました。昭和39年にはその波が鶴岡八幡宮の裏山にまで迫りましたが、学者、文化人、僧侶までがブルドーザーの前に立ちはだかり宅地造成を阻止した、いわゆる「御谷騒動」は、我が国初のナショナルトラストとして結実し、自ら古都の環境と誇りを守った鎌倉市民のシビックプライドとして脈々と現代に引き継がれています。

#### 【鎌倉らしさ】

- ・ 豊かな自然環境（海、山、丘陵等）に恵まれている
- ・ 歴史的な文化資源（神社仏閣等）が豊富である
- ・ 自然環境、歴史、文化を守ってきたシビックプライドが引き継がれている

一方、深沢地区に目を向ければ、古都中心部を囲む広町緑地から常盤山緑地へと連なる緑のネットワークと、市境を流れる柏尾川に囲まれ、西方を眺めれば雄大な富士山の景色を望むことができます。そして鎌倉幕府の歴史を振り返れば、新田軍による鎌倉攻めにおいて激戦地となった洲崎古戦場の跡地に立つ、この地に尊い命を落とした武士たちの御霊を弔う「泣塔」を地域の方々が丁重にお護りするなど、歴史文化遺産を守りつないできた風土があります。

そして、深沢地区における新たなまちづくりを計画している事業用地は、地域の大動脈である湘南モノレールの湘南深沢駅とJR東海道線の新駅計画地に挟まれ、交通の結節点としての高いポテンシャルを秘めている土地です。ここ深沢地区においては、鎌倉、大船に次ぐ、第三の都市拠点の形成を目指し、持続可能な都市経営を実現するための新たなエンジンとしての役割が期待されています。この地域は、「都市マスタープラン」等においては工業系の土地利用を目指す土地として位置づけられていることから、深沢地区は本市における持続的な産業振興を支える要となる土地です。

## 【深沢らしさ】

- ・ 鎌倉地域、鎌倉山から連なる丘陵地に囲まれた緑豊かな土地、富士山の眺望に恵まれている
- ・ 泣塔、洲崎古戦場などの歴史文化遺産を守りつないできた風土がある
- ・ 湘南モノレール湘南深沢駅とＪＲ東海道線の新駅計画地に挟まれ、交通の結節点としての高いポテンシャルを秘めている
- ・ 鎌倉市の産業集積地としての役割を担っている

## 2) 新たな潮流

鎌倉市は、平成 30 年（2018 年）6 月に国から SDG s 未来都市に選定されました。この SDG s の理念は、これまで本市が目指してきた持続可能な都市経営と方向性を同じくするもので、この SDG s の認定を受け、持続可能なまちづくりをより一層強化しています。平成 30 年 7 月には Fab City 宣言、11 月にはパブリテックシティ宣言を行った他、鎌倉テレワーク・ライフスタイル研究会を発足するとともに、住民が主体となって暮らしを豊かにするための活動を行う「鎌倉リビングラボ」の取り組みも実践されており、市民・企業等との連携・共創、テクノロジーを活用した行政サービス、鎌倉にふさわしい産業振興・人材集積などの施策の推進に取り組んでいます。また、「つながる鎌倉条例」や「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」を制定し、魅力と活力にあふれる地域社会、多様性を認め、互いを思い、自分らしく安心して暮らせる「共生・共創社会」の実現を目指しています。

さらに、本庁舎の移転先を本事業区域の行政施設用地と定めており、災害時には市民の生命を守る前線基地となるよう、同じく本事業区域への移転を計画している消防本部との連携やグラウンド等のオープンスペースの活用を考慮し、受援力を持った施設とすることが期待されています。加えて、深沢地区周辺には、高度な技術を有する企業の研究拠点やオープンイノベーションの拠点等も立地しており、深沢地区をフィールドとした官民の連携も期待されます。

国や県に目を向けると、神奈川県重点施策として「ヘルスケア・ニューフロンティア」政策を推進しています。ヘルスケアの分野で「最先端医療・最新技術の追求」と「未病の改善」という 2 つのアプローチを融合させ、健康寿命を延伸し、持続可能な新たな社会システムを創造していく政策で、深沢地区のまちづくりのテーマである「ウェルネス」との共通点も多く、県市での連携が期待されます。

国では、SDG s と連動する官民を挙げた「Society 5.0」の推進や、第四次産業革命を先行的に体現する最先端都市となる「スーパーシティ」の構想が検討されており、AI や IoT による技術革新を取り入れることで、人口減少、少子高齢化などの社会課題への対応や低炭素社会の実現などが求められています。また、まちなかウォークアブル推進プログラムも推進されており、鎌倉市も「ウォークアブル推進都市」として参加しています。

#### 【新たな潮流】

- ・ 誰ひとり取り残さない、持続可能な「SDGs 未来都市」としての選定
- ・ 誰もが自分らしく、ともに生きる共生社会実現の期待
- ・ 新たな価値を創造、発信する、鎌倉リビングラボの取り組み
- ・ 新時代のはたらき方を発信する、鎌倉テレワーク・ライフスタイル研究会の発足
- ・ スタートアップの集積など、地元民間活力と連携した官民連携、共創の取り組み
- ・ 本庁舎、消防本部等を備える防災拠点としての責務
- ・ 周辺企業等との連携による、未病の改善、ヘルスケア・ニューフロンティア施策実装への期待
- ・ 未来志向のまちづくりによる、Society5.0、スマートシティ/スーパースシティ構想実現への期待

### 3) まちの将来像3つの視点

深沢地域が目指す「ウェルネス」のまちづくりの具体的な方向性として、古都鎌倉に伝わる旧来からの「鎌倉らしさ」、深沢地域が大切に守り抜いてきた「深沢らしさ」に加え、新しい「鎌倉らしさ」につながる社会の潮流を受け止め、鎌倉市の第3の都市拠点にふさわしいまちづくりを目指し、「まちの将来像3つの視点」を示します。

#### ●こころとからだの健康を育むまち

～人々が日常的に健康づくりやスポーツに親しみ、こころとからだ健康で笑顔になる～

地域が有する自然環境等を活かし、ウォーカブルな空間を整備することで、健康づくりや誰もが気軽にスポーツに親しむ環境を整え、賑わい、交流、コミュニティの創出を促すとともに、ヘルスケア・ニューフロンティア政策等との連携を図ることで、人々のこころとからだ健康になり、笑顔があふれるまちづくりを目指します。

#### ●イノベーションを生み出すまち

～産業、地域活動など様々な分野で豊かな人材が交流し、新たな価値、産業、技術を生み出す～

周辺に高度な技術を有する企業の研究拠点やオープンイノベーションの拠点等が立地し、JR東日本東海道本線の新駅の設置など交通結節点としてのポテンシャルを有する深沢地区の特徴、豊かな自然環境や人材を有する鎌倉の特徴を活かし、人々の交流を促すとともに、社会環境の変化や技術革新、情報革命等にも柔軟に対応することでイノベーションを起こし、新たな価値、産業、技術を生み出すまちづくりを目指します。

●あらゆる人と環境にやさしいまち

～鎌倉の自然や歴史・文化を維持し、居心地が良く、多様な人々が安心して暮らし続ける～

鎌倉の豊かな自然や歴史・文化、鎌倉市民のシビックプライドを背景に、自然環境・グリーンインフラに配慮し低炭素な社会の実現を目指すとともに、誰ひとり取り残さないとするSDGsの精神や、共生・共創の精神を醸成する環境を整えることで、持続可能で、災害に強い、多様な人々が安心して暮らせるまちづくりを目指します。

【まちの将来像 3つの視点】

